

1 「住民力」に関する調査・研究報告書

目 次

1. 「住民力」という視点
 - 1.1 住民同士のつながり 絆 が生み出す地域資源「住民力」
 - 1.2 2008年調査と2009年調査

2. 住民力の構成
 - 2.1 住民力指標の作成 2008年調査からの知見
 - 2.2 A-1 親密なネットワーク
 - 2.3 A-2 橋渡しネットワーク
 - 2.4 B-1 支援期待度
 - 2.4.1 (積極的)支援期待度と消極的支援期待度
 - 2.4.2 支援からの孤立
 - 2.5 B-2 地域参加度
 - 2.6 C 信頼
 - 2.7 住民力を構成する要素の相関分析

3. 住民力が高いのは誰か
 - 3.1 家族的属性と住民力
 - 3.2 学歴と住民力
 - 3.3 年齢と住民力
 - 3.3.1 再就労仮説
 - 3.3.2 卒業仮説
 - 3.4 「住まい」と住民力
 - 3.5 住民力が高いのは誰か

4. 個人の意識・行動と住民力
 - 4.1 コミュニティ・モラル
 - 4.2 投票行動
 - 4.3 地域の生活課題と住民力

5. 住民力と地域特性
 - 5.1 住民力と地域
 - 5.2 住民力の分布と戸建て率
 - 5.3 住民力の集合効果
 - 5.4 世田谷区の住民力

1. 「住民力」という視点

1.1 住民同士のつながり 絆 が生み出す地域資源「住民力」

本研究は、世田谷区における地域住民のつながりが、住民の行動にどのような効果をおよぼし、また地域の特性とどのように関わりあっているのか、という点を明らかにしようとするものである。この問題を考えることで、地域の生活課題の解決に住民間のつながりが果たしている役割をより見えやすくすることができる。

人々がとりむすぶ関係を、ひとつの資本とみなす立場がある。これを社会関係資本（論）とよぶ。社会関係資本の研究は、従来、社会的ネットワーク研究に関する学問的潮流のなかで進められてきた。人的資本・物的資本と並び、人々の保有する「関係」を資本としてとらえる立場である。また一方、人々どうしが結ぶ関係の豊かさを社会関係資本とみなし、その社会全体に好影響をもたらすという意味で重要だと主張する立場もある。近年、この立場に属する政治学者のR. パットナムの主張が脚光をあびている。パットナムは社会関係資本の豊かさを、住民の政治参加に結び付けた。そのとき、彼は社会関係資本を住民相互のネットワーク、^{ごしゅうせい}互酬性、信頼の三つからなるものと考えている¹。本研究でいう「住民力」とは、おもにパットナムの呈示する社会関係資本の概念によっているが、概念の定義に関する議論や切り口の問題にとらわれることなく、分析概念としての有効性を求めたいという目的、また調査対象者に与える印象を考慮した結果から、本研究にあたって新たに創り出した造語である（森岡 2010）²。

地域には有形・無形のさまざまな資源が存在している。このとき、住民力（社会関係資本）という考え方にもとづけば、住民相互のつながり 絆 をひとつの資源とみなすことが可能となる。地域社会における課題解決の原動力として、住民力に期待することは理由のないことではない。昨年度調査から得られた知見をまとめると、住民力は人によって高低がある、つまり有利な人々と不利な人々がいるということ、住民力は居住のあり方との関係が深いこと、住民力は個人の意識や行動に影響を与えていること、住民力は地域の特性と関係が深いこと、住民力の高い地域では、不利な人々の住民力が押し上げられている、すなわち「集合効果」があること、などが明らかとなった。今年度は、より幅広い年齢層を対象にした調査である。昨年度調査でえられた知見が今年度調査からも観察されるのか、まず第二節で住民力指標を構成する要素について昨年度調査と比較しながら検討を行う。続いて第三節で、個人属性と住民力の高低との関係を見る。そののち、第四節では住民力が個人の意識や行動に与える影響を、第五節で住民力と地域特性との関係を確認し、地域の課題解決に住民力が果たしうる可能性について考察してゆく。

¹ Putnam, Robert, 1993, *Making Democracy Work*, Princeton Univ. Press(=2001, 河田潤一訳『哲学する民主主義』NTT出版).

²森岡清志, 2010, 「住民力と地域特性」『都市社会研究』世田谷区: 1-18.

1.2 2008年調査と2009年調査

まずは調査方法を確認しておこう。2008年度調査はせたがや自治政策研究所と首都大学東京が共同で行い、2008年11月に無記名自記式の郵送調査を実施した。調査の母集団は2008年10月1日時点で世田谷区に居住する45歳～74歳の男女とし、住民基本台帳をもちいて、8000人を系統抽出した。回収数は5251(うち有効5225)であり、回収率65.63%、有効回収率は65.31%と、郵送調査としては異例の高い回収率に達した。

2009年調査もせたがや自治政策研究所と首都大学東京が共同で行った。今度は年齢層の幅をひろげ、サンプル数も一回り規模を大きくすることとした。やはり無記名自記式による郵送配布の郵送回収によって、2009年9月に実施している。母集団は2009年8月1日現在で20歳以上74歳未満の、世田谷区に住民票を有する男女とした。年齢によって層化し、各層から系統抽出法で無作為に標本を抽出した。標本数は10000(20～34歳 3600・35～74歳 6400)である。これに対して回収数は5467、うち有効回収数は5447であった。回収率は54.67%、有効回収率は54.47%である(年齢不詳含む)。層別に内訳をみると、20～34歳で有効回収数1390(有効回収率38.6%)、35～74歳で有効回収数4040(有効回収率63.1%)となった。

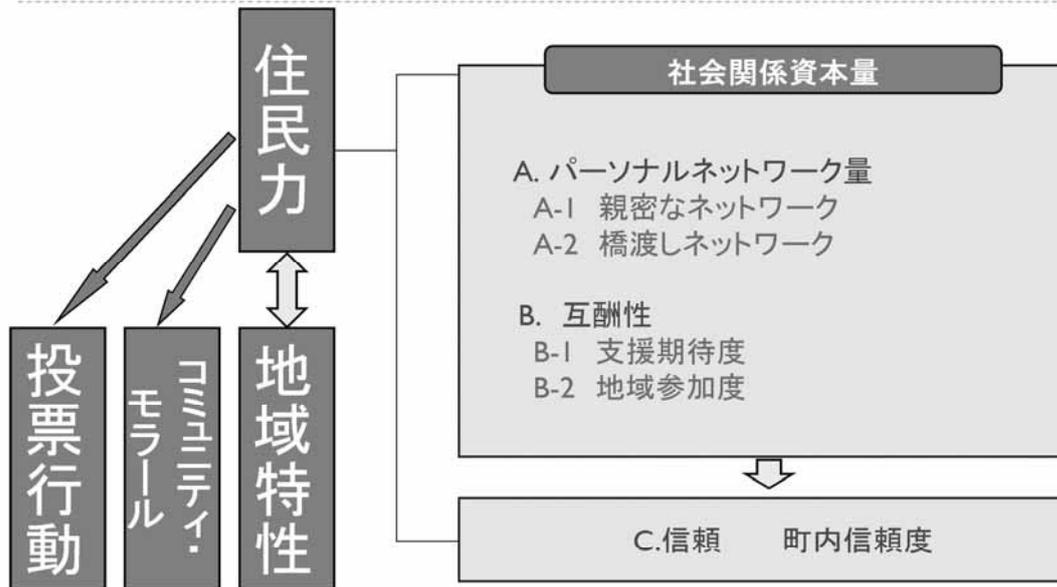
2. 住民力の構成

2.1 住民力指標の作成 2008年調査からの知見

2008年の調査を踏まえ、住民力の指標を構成しよう。住民力は次の図のように、パーソナルネットワーク量と互酬性、そして信頼という三要素からなる複合的な概念として構想されている。パーソナルネットワーク量には、対象者が親しい関係と認めた親族や友人などからなる「親密なネットワーク」と、より広い世界へと個人をつないでくれる「橋渡しネットワーク」との二種類のネットワークが含まれる。橋渡しネットワークは対象者からみて親しいとはいえなくても、話をする程度の知己であればよい。互酬性は生活上の様々な必要について、周囲の関係からどの程度の支援が期待できるかという「支援期待度」と、地域の活動にどの程度参加しているかという「地域参加度」とが含まれる。そして最後に、町内の人々に対する信頼を加える。こうして、パーソナルネットワーク量・互酬性・信頼という三要素が住民力というひとつの指標に合成される。合成された住民力は、投票行動、コミュニティ・モラルに影響をあたえ、地域特性と相互に影響を与え合っていることが昨年度調査からわかっている(森岡 2010)。

ただし今年度調査は、昨年度にくらべ対象者の年齢が幅広い。年齢との結びつきが強い調査項目などは、別の指標への置き換えを検討する必要があるかもしれない。そのため、いったん全ての指標について今年度調査の結果と昨年度調査の結果を比較し検討した。

図1 住民力指標の合成



出典：森岡 2010

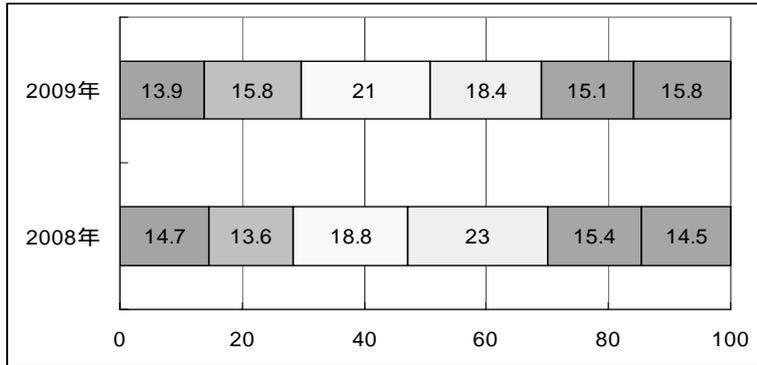
2.2 A-1 親密なネットワーク

パーソナルネットワーク量は、A-1 親密なネットワークと、A-2 橋渡しネットワークの2つから構成されている。親密なネットワークは、親しい人々の人数と近所づきあいの人数を合計して算出する。親しい人々の人数とは、(親しくつきあっている)きょうだい、配偶者のきょうだい、親しい親せき、その他の友人の数を合計したものである。近所づきあいの指標とは、「立ち話をする人数」と「おみやげを買ってくる人数」を足し合わせた合計人数となる。ただしこのままの数値では分布にゆがみが生じるため、6段階に得点化³した値を分析に使用する。よって、A-1 親密なネットワークは1から6までの値をとる。

A-1の分布について、2008年調査と2009年調査を比べてみよう。両年の分布を図2に示した。2008年調査では平均14.9、2009年調査では平均13.18となっている。若年層をふくむ2009年調査では平均値がやや低下しているものの、おおむね似通った傾向だといえる。指標Aに関しては昨年と同様に構成できる。

³分布のゆがみを補正するために真数に1を加えて常用対数に変換し、この変換値を平均と標準偏差を用いて6段階に分割した。

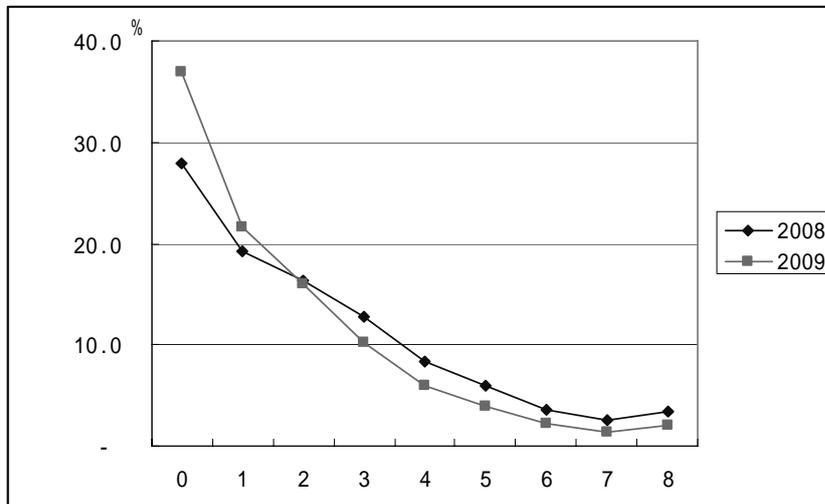
図2 A-1 (親密なネットワーク量)の年度比較



2.3 A-2 橋渡しネットワーク

続いて、A-2「橋渡しネットワーク量」をみてゆこう。橋渡しネットワークは、町内会・自治会の役員、ボランティア団体・市民運動団体の役員、業界団体・同業者団体の役員、区役所の職員、市区町村の首長、地方議会議員、国会議員、政治家後援会役員、議員秘書、新聞・テレビ等の記者・ディレクター、医師・歯科医師、弁護士、商店街の店主、という人々について、対象者が話をするような知り合いがいると答えた回答の合計である。0~12までの値をとるが、いずれの調査でも8以上が外れ値となったため、上限を8として再整形した。2008年調査の平均は2.19であったが、2009年調査の平均は1.65と、若年層の多い2009年調査では平均値が低下している。図3で分布をみると、0や1といったごく小規模の橋渡しネットワークしか保有していない人がいずれの調査においても全体の半分以上を占めている。特に2009年調査では、1以下の規模が全体の60%を数える。2008年調査では3以上の人も一定の割合にのぼっており、グラフはゆるやかな傾斜をみせるが、2009年調査では2以上の割合が低下するため、急激な傾斜となる。橋渡しネットワークの比較からは、年齢とともに社会的な交際圏が拡大されてゆく傾向をみてとることができる。

図3 A2 (橋渡しネットワーク量)の年度比較



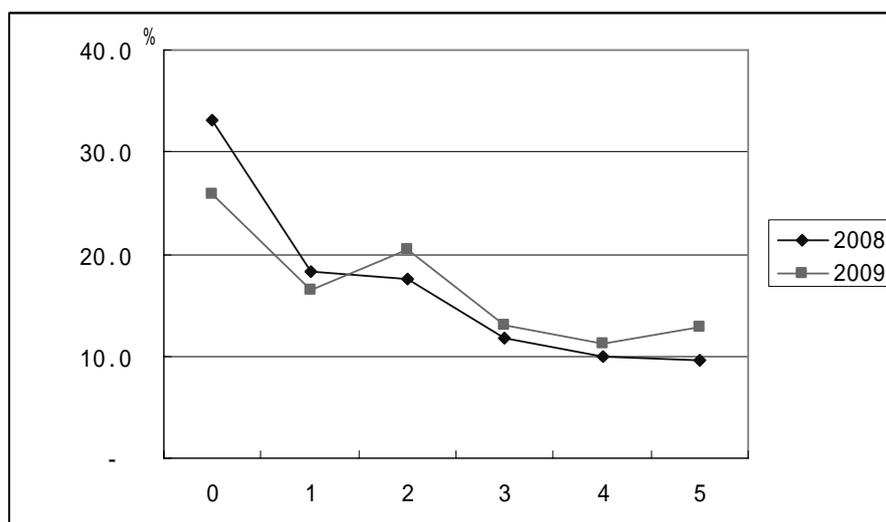
2.4 B-1 支援期待度

つぎにB. 互酬性の検討をすすめてゆきたい。B-1 支援期待度からみてゆこう。支援期待度とは、表1に示した質問に対して「気軽に頼める人がいる」と回答した件数を足し合わせたものである。質問は「実践（practice）、仲間（companionship）、相談（counseling）」という支援の3つの機能に対応するよう作成されている。質問は6問あるため、支援期待度はケースにより0～6までの値をとる⁴。2008年度調査の平均値は1.75、2009年度調査の平均は2.06となっている。平均の比較から明らかなように、2008年調査は全体的に支援の期待度が低く、2009年調査では支援の期待度が高い。特に2008年では0点、1点など低い期待度の人々の割合が高いところに特徴がある。若年層を含まない2008年度調査に孤立者が多くみられたことから、高齢者に孤立者が多い傾向を示唆している可能性がある。

表1 支援期待度の質問項目

一週間くらい家をあけるような時に、留守を頼める人
家族の誰かが入院した時に、手伝いを頼める人
家計や資産などお金のことについて相談できる人
日ごろからおしゃべりしたり一緒に出かけたりする人
個人的な悩みごとについて相談できる人
何かあったとき、専門家など頼りになる人を紹介してくれるような人

図4 B1 支援期待度の比較

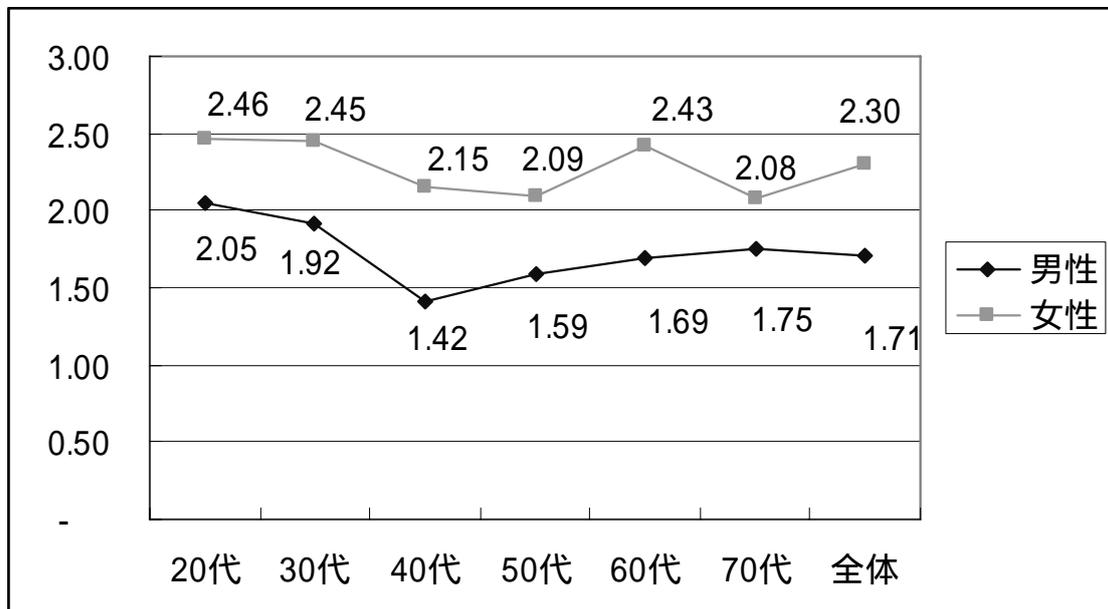


⁴2008年度調査では、「何かあったときに、頼りになる人を紹介してくれるような人」の設問がないため5点満点となる。2008年度と比較するときのみ、2009年度調査も同項目を削って5点満点の指標を作成した。

2.4.1 (積極的)支援期待度と消極的支援期待度

高齢者と孤立の関係を確認するため、2009年度調査データをもちい、図5で年齢層別に平均値を比較してみた⁵。すると予想とは若干異なる結果があらわれた。男女とも20-30代では高く、40-50代で低い。昨年度調査と比較したときの2009年度の平均値の高さは、20-30代を中心とする若年層によるものであったことがわかる。男女別では、男性は40代で最低を記録し、70代にかけて少しずつ高くなる。いっぽう女性は、40から70代までゆっくりと低下してゆくが、60代で急激な上昇をみせる。男性の40代の谷と、女性の60代の山とは、何によってもたらされているのだろう。

図5 男女別年代別支援期待度(2009年度)



ここで、指標作成を思い出してみたい。支援期待度は、「気軽に頼める人がいる」の合計であった。設問には、「気軽に頼める人がいる」「気軽にとはいいないが頼める人がいる」「いいない」の三択でたずねている。「気軽にとはいいないが頼める人がいる」につけた数の合計を「消極的支援期待度」と仮に名付け、「気軽に頼める人がいる」の合計である、積極的な支援期待度と比較してみよう。

図6と7は、男性および女性の、積極的な支援期待度と消極的支援期待度の年齢別平均値を示したものである。消極的支援期待度の年代別の高低を示すグラフは、男女とも年齢別の推移は似たものとなる。ただし女性において積極的な支援期待度が平均的に高い。男性は20代と70代をのぞくと消極的期待度のほうが高いのに対し、女性は40代で拮抗する以外は積極的な支援期待度のほうが高い。そして男女いずれも、積極的な支援期待度と消極的支援期待度とは対照的な推移をみせていることに注意したい。そして積極的な支援期

⁵ ここからは比較を要しないため、6点満点の指標に戻して分析を進める。

待度の底と消極的支援期待度の頂が交差する時期が、ちょうど40代であるということがわかる。

図6 (積極的)支援期待度と消極的支援期待度(2009年度:男性)

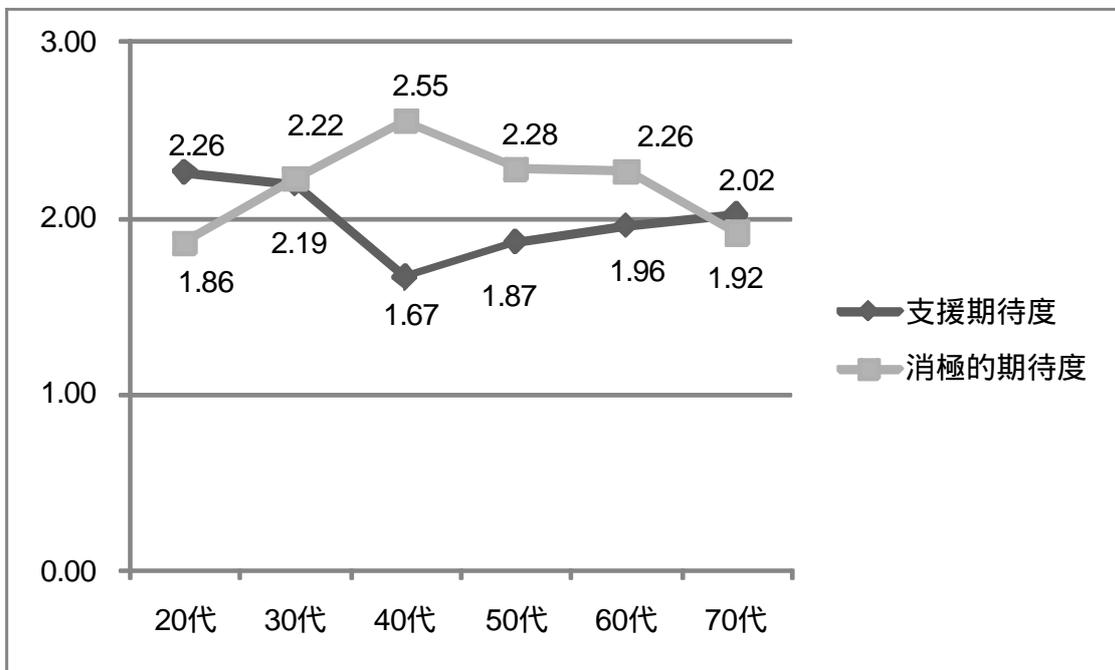
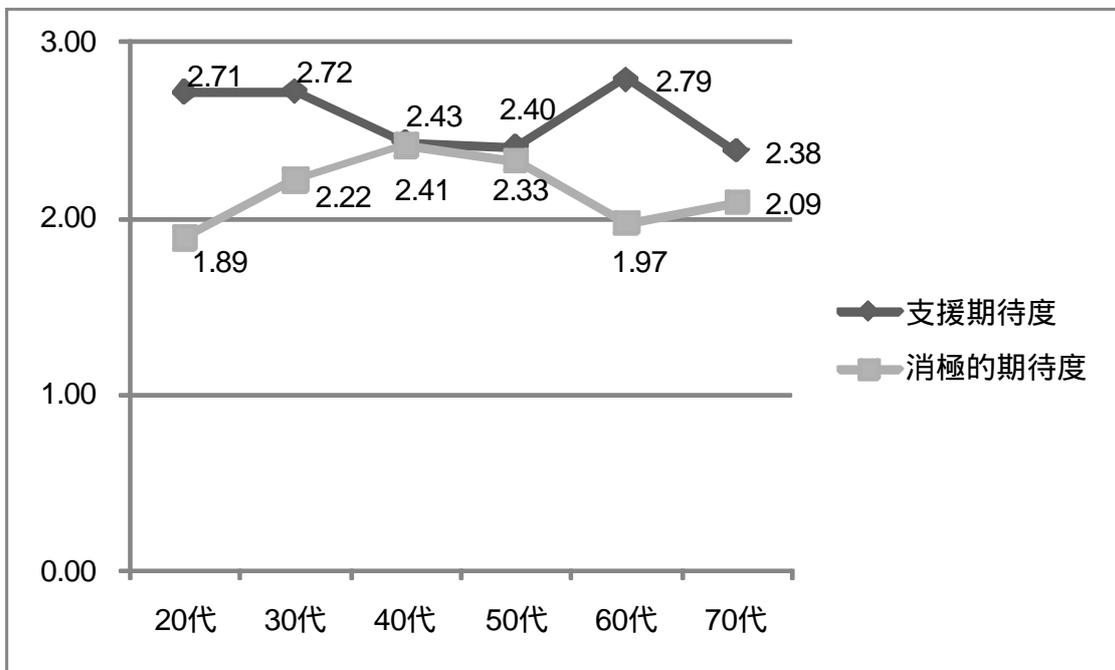


図7 (積極的)支援期待度と消極的支援期待度(2009年度:女性)



これを、別のデータからみてみよう。同じく支援について、誰からサポートを調達しているかという関係性についての質問が用意されている。「気軽に頼める」「気軽ではないが頼める」を回答した場合、副問でその人は誰なのかということを探っている。1. 別居の親子、2. 近所の人、3. 親せき（きょうだい・おじ・おばを含む）、4. 友人、5. 職場の人のなかから一つを選んでもらうという方式をとった。これを、一問ごとに答えた関係を足し上げたとき、それぞれ0~6点までの指標ができる。この指標をもちい、サポート源としてそれぞれの関係がどれだけ登場しているのかを男女それぞれ年齢別に図8と9に示した。

親族からの支援では、男女とも似たような傾向があらわれている。別居の親子からの支援は20代でもっとも低い。30代では全年齢を通して最も高くなる。そしてその後50代まで低下をみせ、60、70代は再び上昇に転じる。20代で親の支援への期待が低いのは、選択肢が「別居の」親に限られているからだと思われる。逆に30代で高い理由は別居の割合が高くなるゆえであろう。そして本人が年をとると並行して親も老齢にさしかかり、支援の機能を縮小してゆく。60代からは、逆に子どもが支援の源としての機能を果たすようになっていく様子が見えてくる。親せきについては20代でやや高いが30代で低い。そしてその後ゆるやかに上昇し、50-70代を通して安定している。20代で高いのは先にみた通り親との同居の割合が高いため、同居の親をのぞけば親せきからの支援を受けやすいということであろう。非親族関係では、近所の人からの支援も男女で差がみられない。年齢とともにゆるやかに上昇していた。

友人に関しては男女の差がめだつ。男女とも20代で高いことは共通している。しかし男性はそこから40代にかけて急激に友人からの支援が低下する。50代で若干高くなるが、60代から70代にかけて再び低下する。これに対し女性は50代までほぼ変わらず友人からの支援を調達しているが、その後急激に70代にかけて低下をみせる。

このグラフは横断的に一時点を切り取ったものであるから時系列的な変化を云々することには慎重でなければならないが、このグラフの検討からは、「親から子へ」という支援の提供源の変化をまず大きな流れとして確認できるだけでなく、友人を中心とする支援関係から、親せきや近所の人を中心とする支援関係へと個人の中の支援関係が再編されてゆく過程の存在を読み取ることができるように思う。特に中年期において「気軽にとはいえない」関係が相対的に重要性を増してくる要因はここにあるのであろう。そして同時に、老年期において、子どもからの支援の比重が高いことに注意したい。特に60代女性で支援期待度が跳ね上がっていたのも子どもからの支援が期待できるようになるからだと思われる。

これまでみてきたように、まずは友人の支援が、次いで親せきからの支援が、老年期に入ると急速に縮小する。近所の人からの支援はこの間上昇するが、縮小幅を埋めるほどには高くない。唯一老年期に向かって安定的に上昇する支援関係が子どもである。老年期における、支援関係としての子どもの存在の重要性が示唆される結果だといえる。

図8 支援の関係性（2009年度：男性）

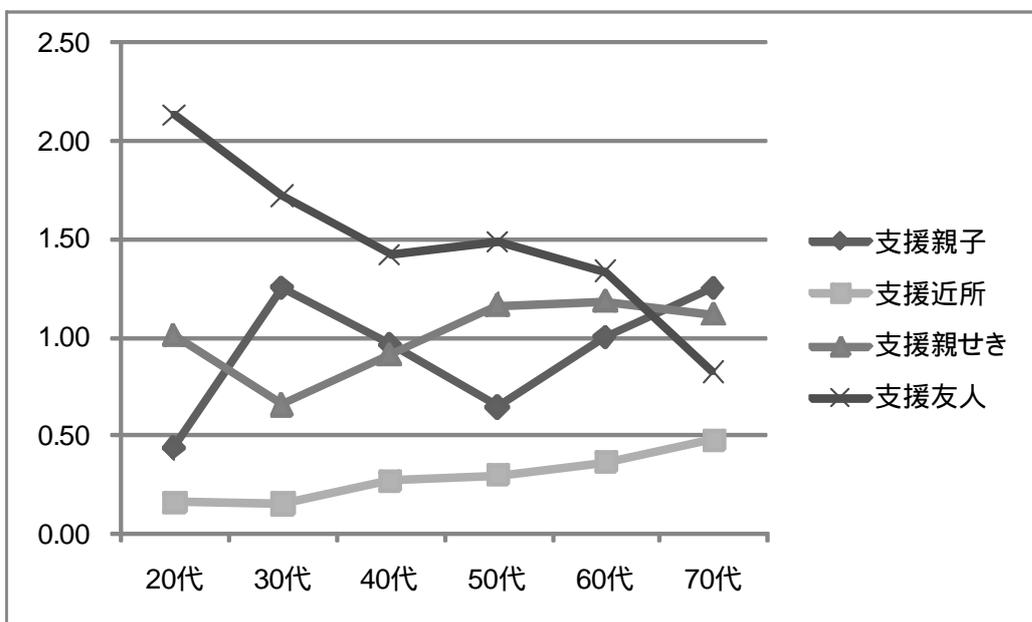


図9 支援の関係性（2009年度：女性）

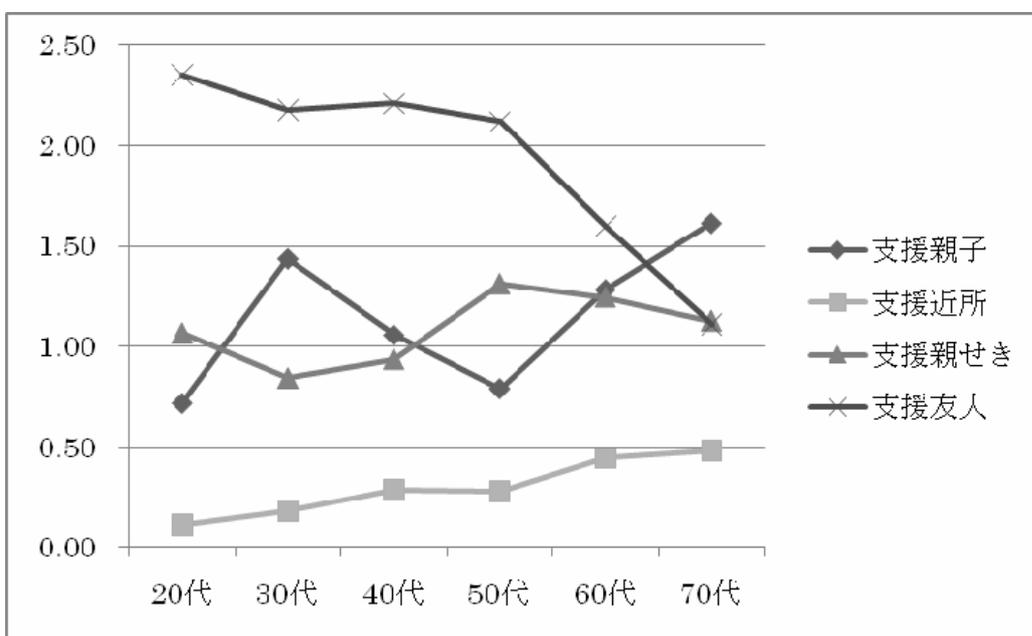
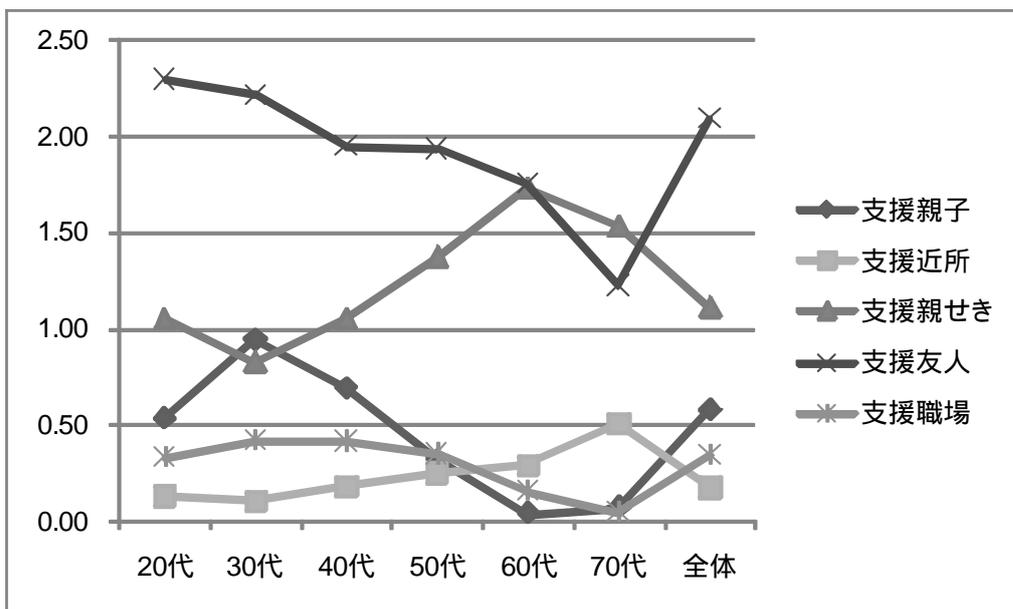


図10に子どものない人の支援関係を年齢別に示した。当然ながら、加齢とともに「別居の親子」による支援は右肩下がりとなり、中年期以降は親せきと友人からの支援に依存してゆく傾向がみてとれる。さらに親せきと友人からの支援が低下し、支援を期待できなくなる70代で、近所の人的重要性が高まっている様子をうかがうことができる。

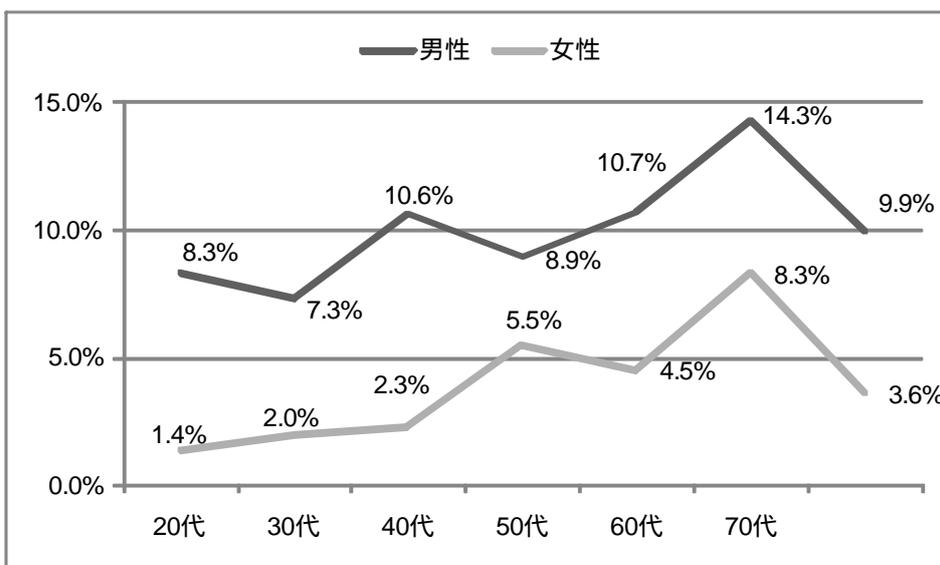
図 10 支援の関係性（2009 年度：子どもなし）



2.4.2 支援からの孤立

支援の関係については、これまでみてきた「気軽に頼める人がいる」「気軽とは言えないが頼める人がいる」のほかに「頼める人はいない」という選択肢が用意されている。6問すべてについて「頼める人はいない」と回答した人を、ここでは支援関係からの孤立を表すものとみなし「孤立」の状態と呼びたい。孤立状態にある人を、男女別に各年齢層で比較したものが図 11 である。

図 11 男女別年齢と孤立⁶



⁶ 女性のみ 0.1%水準で有意。

男性では全体の 9.9%、ほぼ一割に孤立が見られる。これに対し、女性では 3.6%にとどまる。男性が女性に比べ倍以上の割合で孤立している。JGSS2003 のデータをもとに情緒的サポート関係を保持しない人々の特性を分析した石田光規によれば、孤立をもたらすものは一に年齢、二に性別、三に地域格差であるという⁷。高齢者ほど、男性ほど、また非都市化地域に住んでいるほど孤立しやすいとされる。本調査データは都市部の住民に限ったものであるが、本調査データにおいても、高齢であるほど孤立の割合が高く、男性のほうが孤立の割合が高いことが確認できる。では、男性において孤立しやすいのはどのような人であろうか。先行研究では、性別を変数の一つとして扱っているために男性と女性それぞれで孤立の背景が異なる可能性を考慮できていない。そこで本稿では男女間にみられる孤立の割合の差をひとまず与件とし、男女別に孤立をもたらす要因分析を行ってみよう。

表2 孤立=1 とするロジスティック回帰分析結果

	B	標準誤差	Wald	Exp(B)
男性				
年齢	0.035	0.008	21.098	1.036 ***
配偶者(あり=1)	-0.671	0.25	7.196	0.511 **
子ども(あり=1)	-0.485	0.256	3.584	0.616
三世帯世帯の有無(三世帯世帯=1)	-0.309	0.44	0.493	0.734
大卒の有無(大卒=1)	-0.044	0.191	0.052	0.957
居住年数30年(30年以上=1)	-0.517	0.243	4.513	0.596 *
定数	-3.162	0.368	73.898	0.042 ***
$\chi^2=32.188^{***}$ -2 対数尤度=854.244				
女性				
年齢	0.036	0.011	10.681	1.037 **
配偶者(あり=1)	0.329	0.33	0.994	1.389
子ども(あり=1)	-0.116	0.346	0.112	0.891
三世帯世帯の有無(三世帯世帯=1)	-0.179	0.537	0.11	0.836
大卒の有無(大卒=1)	-0.113	0.315	0.13	0.893
居住年数30年(30年以上=1)	-0.036	0.329	0.012	0.964
定数	-5.209	0.597	76.179	0.005 ***
$\chi^2=20.736^{**}$ -2 対数尤度=485.460				

*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05

孤立の有無を従属変数とするロジスティック回帰分析の結果からは、男女ともに年齢の効果があらわれた。年齢があがるほど孤立しやすい傾向があらわれている。やはり高齢化の問題は影響しているといえよう。ただし、女性においては他の要因は効果をもたない。女性は高齢であることによるのみ孤立のリスクが高まる。一方男性の場合、年齢に加えて配偶者の有無と居住年数が有意な効果をもっていた。配偶者がいる場合孤立のリスクが低下する。また、居住年数が長い(30年以上)ことも、孤立しない傾向をもたらす。家族

⁷ 石田光規, 2007, 「誰にも頼れない人たち」『季刊家計経済研究』73号:71-79. ただし本稿とは孤立の定義が若干異なる。

をもち、定住型の生活を送ることが、男性にとって孤立のリスクを低下させていることがわかる。

今後は雇用の不安定化や家族規範の変化にともない、生涯結婚しない・できない人口の増加、定住用の住居を購入しない・できない人口の増加が見込まれる。したがって孤立者の増加は不可避であり、政策的な対応の検討が望まれる。

2.5 B-2 地域参加度

つぎにB-2 地域参加度の検討を行う。地域参加度は、次にあげる10の質問に対する回答から構成される指標である。各質問に対し「1.必ず行く・参加する」と回答した場合は3点、「2.できるだけ行く・参加する」と回答した場合に2点、その他の回答は0点として得点を与え、全ての質問に対する得点を合計して算出している。10問あるため得点はケースにより0~30までの値をとる。

この「地域参加度」は明らかな分布の偏りがみられる。2008年度調査の結果でも、いずれの地域活動にも参加していない「0点」となったケースが全体の46.1%であった。若年層を対象に含む2009年度調査では0点の割合は半数を超え、51.8%にのぼる。

両年度の分布を図12で確認してみよう。年度ごとの分布は似ているが、2009年度調査では0点および2点の回答が増えた結果、8点以上が外れ値となってしまう。この歪みに対応するため、2009年度データの分析にあたっては、0点はそのままとし、2点を1点、3~4点を2点、5~6点を3点、7~8点を4点、9点以上を5点として再び得点を与えてまとめた。まとめた後の内訳を積み上げグラフで示したものが次の図13である。本年度住民力指標を構成する際は、この得点化した地域参加度をもちいる。

図12 B2 地域参加度の比較

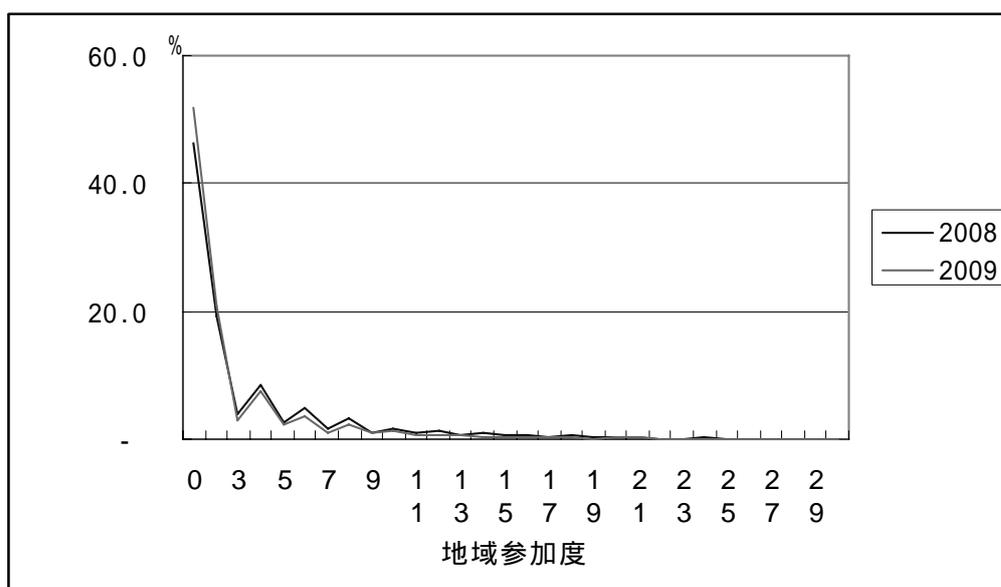
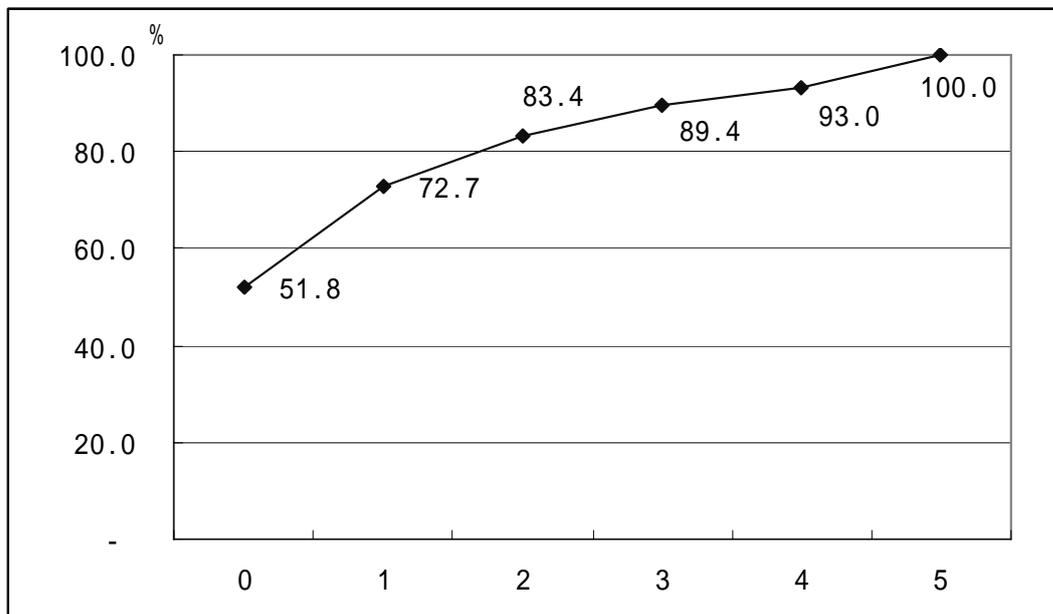


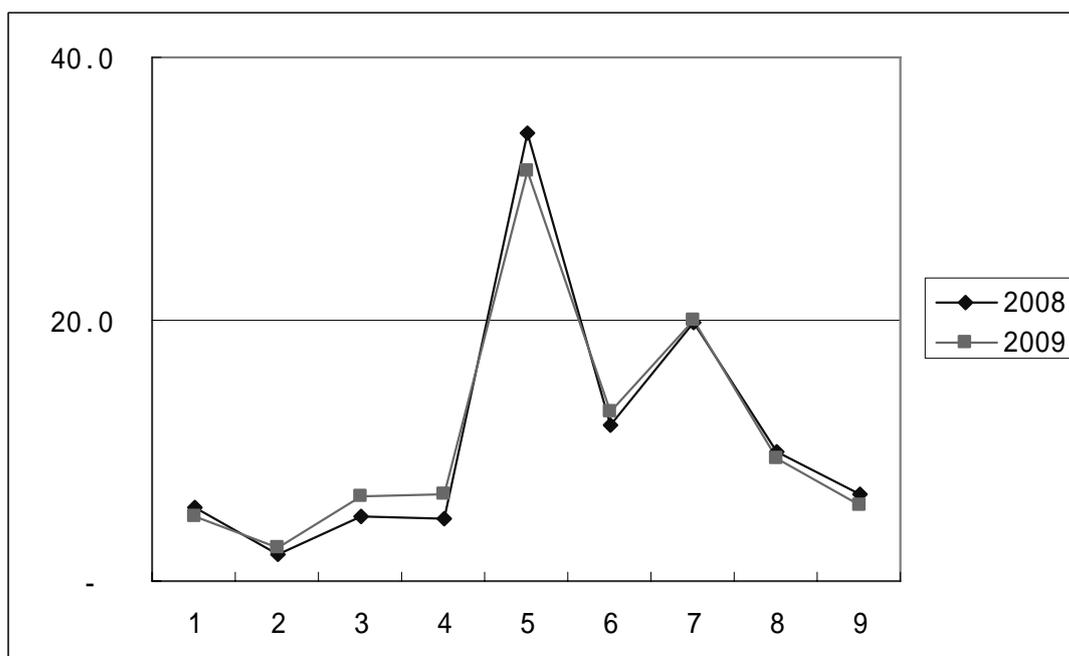
図 13 B2 地域参加度（5点満点）の累積パーセント(2009年度)



2.6 C 信頼

最後にC.信頼について見てみよう。ここで信頼とは、居住している町内の人々への信頼、いわゆる特定化信頼をあつかっている。2008年と2009年で比較してみると、ほぼ同じ分布を示す。

図 14 信頼の比較



2.7 住民力を構成する要素の相関分析

つぎに、2009年に実施した調査データをもちいて、住民力を構成する各要素間の関係を見てゆこう。表3に、住民力を構成する各要素同士の相関係数行列を示した。比較のため、2008年度調査の結果も下段に示している。はじめにA1からB2まで、「社会関係資本量」に含まれる要素間の関係を見てみると、2008年度調査と同様にそれぞれの各要素間で一定の結びつきが確認できる。特にA1「親密なネットワーク量」と他の変数との関連は、昨年度調査の結果よりも強くあらわれている。続いて「パーソナルネットワーク量」「互酬性」「信頼」相互の関係をもても、やはり一定以上の結びつきを確認することができた。今回の調査でも、三要素からなる「住民力」指標を構成しうる。

表3 各要素間の関係

2009年調査

	[A1]	[A2]	[B1]	[B2]
[A1]親密なネットワーク量	-	0.402	0.353	0.352
[A2]橋渡しネットワーク量	***	-	0.291	0.383
[B1]支援期待度	***	***	-	0.189
[B2]地域参加度	***	***	***	-

	[A]	[B]	[C]
[A]パーソナルネットワーク量	-	0.520	0.253
[B]互酬性	***	-	0.221
[C]信頼	***	***	-

*** p<0.001

(参考) 2008年調査

	[A1]	[A2]	[B1]	[B2]
[A1]親密なネットワーク量	-	0.372	0.290	0.325
[A2]橋渡しネットワーク量	***	-	0.276	0.337
[B1]支援期待度	***	***	-	0.137
[B2]地域参加度	***	***	***	-

	[A]	[B]	[C]
[A]パーソナルネットワーク量	-	0.485	0.180
[B]互酬性	***	-	0.174
[C]信頼	***	***	-

*** p<0.001

3.住民力が高いのは誰か

3.1 家族的属性と住民力

以上の検討をふまえ、ここからは2009年度調査のデータをもちいて詳細な分析にうつろう。昨年度の調査結果からは、住民力は個人の基本的属性と「住まい」のあり方に影響されていることがわかっている。基本的属性について昨年の傾向と比較してみよう。本年度調査では、配偶者の有無と三世帯世帯かどうかという家族的属性、そして学歴（大卒の有無）とが影響をあたえていた。配偶者がいる場合、そして三世帯世帯である場合、住民力は高い。今年度の結果を示したものが図15および16である。昨年と同様、配偶者がある場合、そして三世帯世帯である場合に男女ともに住民力が高い傾向が確認された。⁸

図15 配偶者の有無と住民力

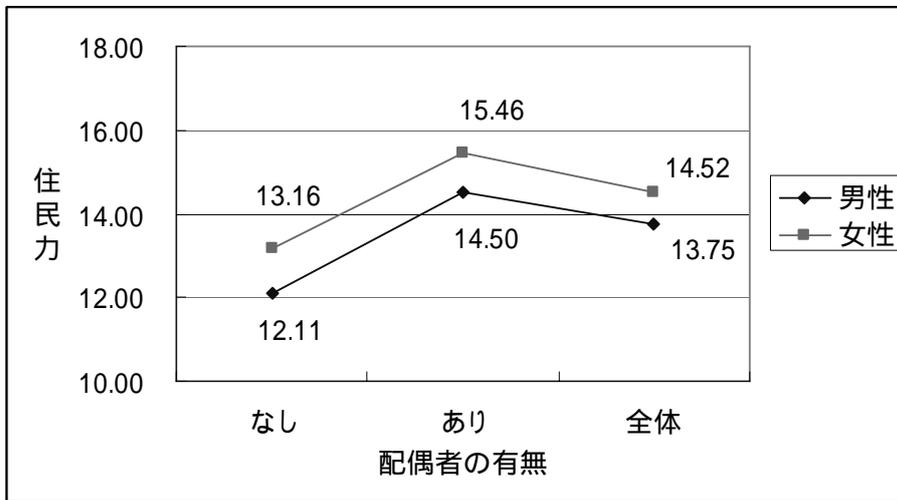
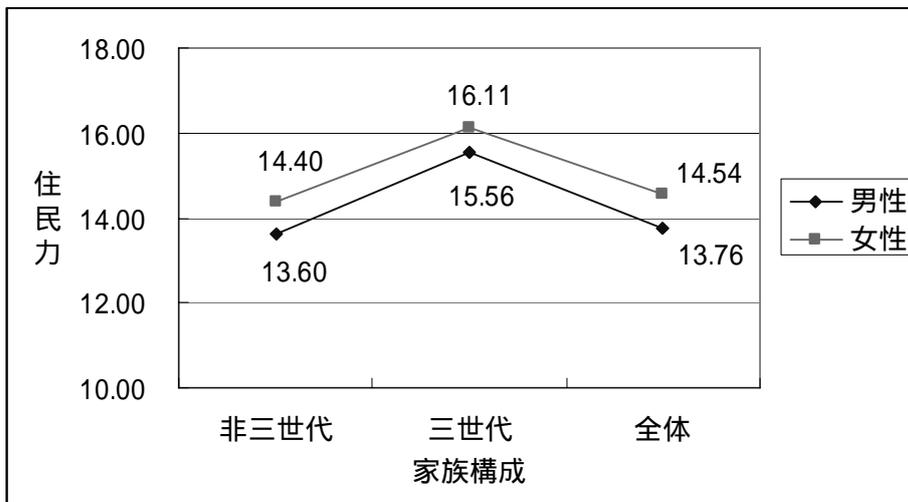


図16 世帯構成と住民力



⁸ いずれの項目も、男女とも0.1%水準で有意。

3.2 学歴と住民力

続いて学歴についてみてみよう。昨年度調査では、大卒である場合に若干住民力が低いという傾向が確認されている。本年度の結果はどうだろうか。下のグラフは学歴別に住民力の平均値をあらわしたものである。学歴は、男性にのみ統計的に有意な差がみられた。一見して明らかなように、他の学歴に比べて中学卒の場合の住民力が低いことが目を引く。そして高卒と短大・高専卒に比べて大学・院卒で高くなる。これは何によるものであろうか。男性だけをとりあげて、住民力を構成する諸要素と学歴との関係をみたものが表4である。学歴によって違いが現れたのは、「橋渡しネットワーク」と「信頼」であった。この二項目が高いことにより、男性大卒者の住民力は高くなっている。いふなれば男性大卒者は、他の社会へ橋渡ししてくれるような知り合い、いわば「顔が利く」知り合いが多く、そして他者への信頼が高いという特徴をもつ。

図 17 男女別にみた学歴と住民力⁹

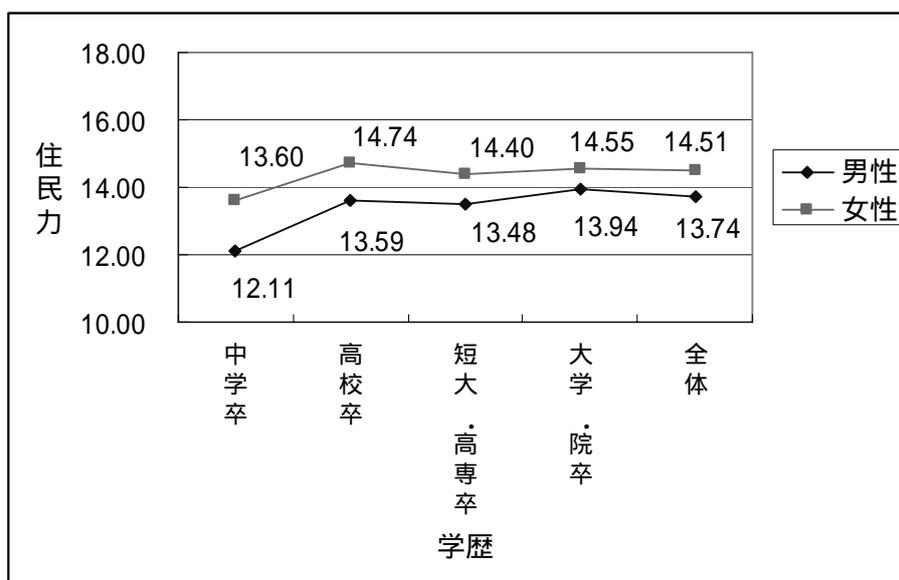


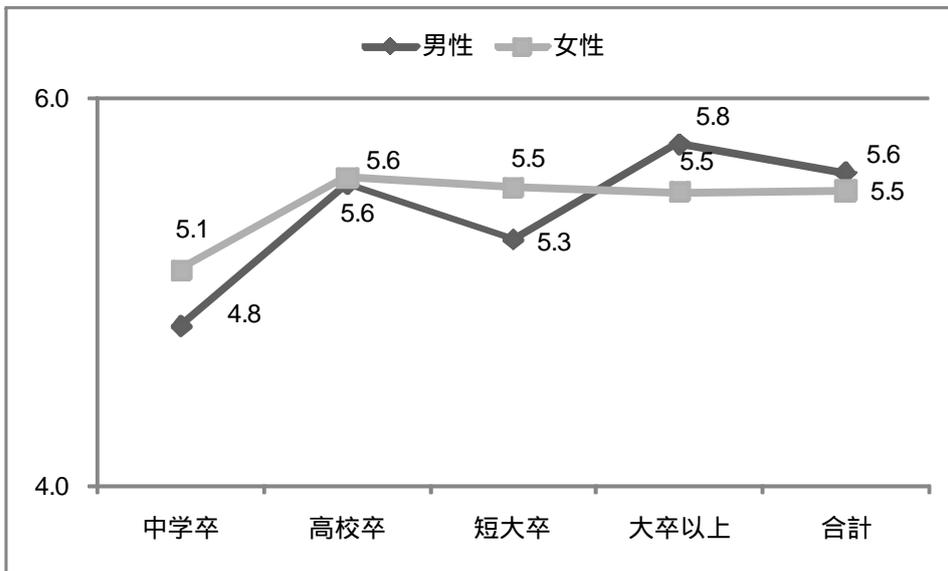
表 4 住民力の要素と学歴（男性）

学歴	A		B1	B2	C	n
	A1 親密なネットワーク量	A2 橋渡しネットワーク	支援期待度	地域参加度	信頼	
中学卒	3.11	1.31	1.71	1.08	4.82	135
高校卒	3.34	1.70	2.02	0.99	5.56	482
短大・高専卒	3.48	1.67	2.01	0.95	5.27	196
大学・院卒	3.35	1.93	1.99	0.92	5.77	1395
全体	3.35	1.82	1.98	0.94	5.62	2208
		**			***	

*** p<0.001, ** p<0.01

⁹ 男性のみ、5%水準で有意。

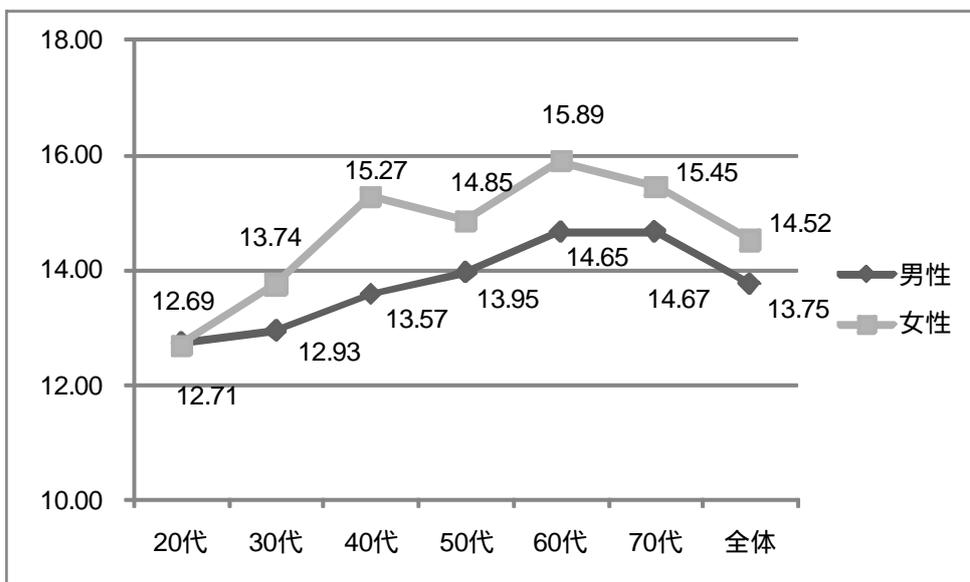
図 18 学歴と信頼¹⁰



3.3 年齢と住民力

次に年齢による影響をみてみよう。男女ともに若い年齢層で低く、40代までは年齢とともに上昇してゆく。女性は50代で若干低下するが再び上昇し、60代でもっとも高い。全体的には年齢とともに住民力は上昇してゆくといえる¹¹。ここで注目したいのは、女性が50代で住民力を低下させていることである。これは何によるのだろうか。

図 19 住民力と年齢



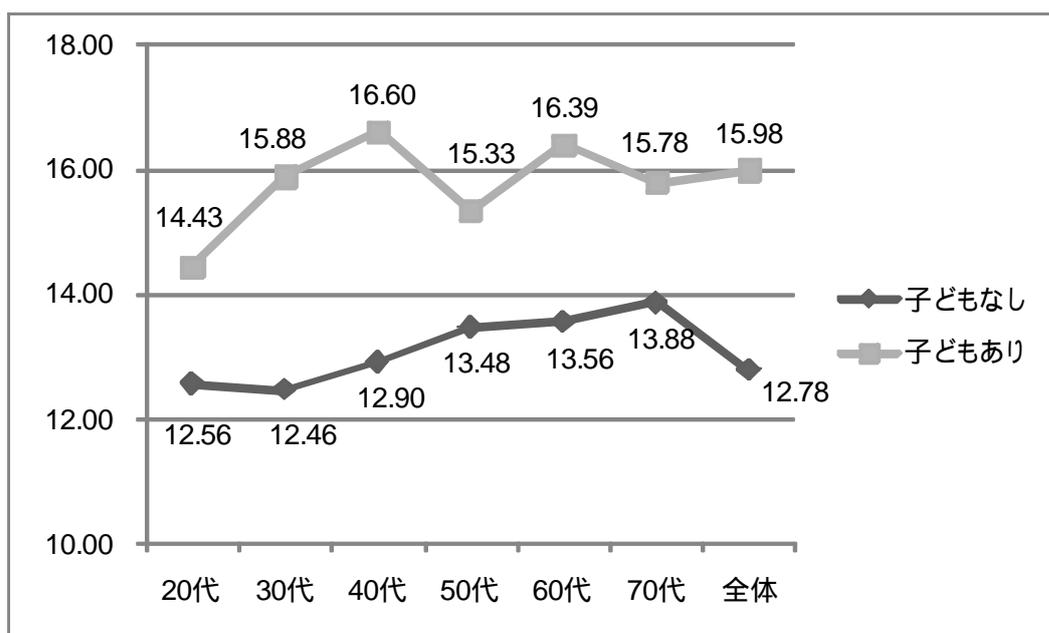
¹⁰ 男性は 0.1%、女性は 5%水準で有意。

¹¹ 男女とも 0.1%水準で有意。

この観察された事実を時系列的变化とみなすならば、二つの解釈が考えられる。ひとつは、この年代では子育てが一段落して再び職業社会へ参加することにより、地域での社会関係が縮小するというもの。もうひとつは、同じく子どもが学校を卒業することで、子どもを通じた活動に動員されることがなくなり、その結果地域での社会関係が縮小するというもの。仮に「再就労仮説」「卒業仮説」と呼ぼう。

いずれの仮説も子どもの影響が前提されている。検証に入る前に、まずは子どもの有無によって女性の年齢と住民力との関係に違いが出るのか、見てみよう。図 20 によれば、子どものいる女性は、40代で 16.60 まで住民力が上がったのち、50代で 15.33 となり谷を迎え、60代で 16.39 まで再び上昇する。一方、子どものない女性では年齢とともに一貫して住民力が上昇してゆく¹²。したがって、明らかに子どもの有無は女性の住民力と関係している。女性の 50代における住民力の低下は、何らかの形で子どもの存在が影響を与えていると考えられる。

図 20 子どもの有無と住民力（女性）



つぎに職業と住民力との関係をもておきたい。職業ごとに住民力はどのような違いをみせるだろうか。表から女性の住民力を職業別に比較すると、自営業で最も高く、無職がこれにつづき、ついで非正規雇用となり、常勤でもっとも低い。この差は何によってもたらされるのかを確認するため、住民力のなかでも社会関係資本量を構成する指標（A1～B2）ごとに平均値を比較してみた（表 5）。自営業では顕著に橋渡しネットワークの数値が高く、いっぽう常勤は地域参加度において他の職業と比べ目立って低く、それぞれ住民力に大き

¹² 子どもありは 5%水準、子どもなしは 10%水準（ $p=0.52$ ）で有意。

な影響をあたえている。また非正規雇用と無職を比較すると、全ての指標において少しずつ無職のほうが高く、その結果、住民力として合成したときの差が大きくなっている。非正規雇用と無職を比較したとき、住民力において無職が有利だという傾向が確認できた。女性において、職業と住民力との間の関連が認められる。

こうして、先にあげた二つの仮説の検証に入ることができる。

表5 職業と住民力（女性）

職業	住民力	A1 親密な ネットワーク	A2 橋渡し ネットワーク	B1 支援期待 度	B2 地域参加 度
自営業	16.99	3.86	2.58	2.93	1.62
常勤	13.38	3.47	1.29	2.62	0.66
非正規	13.91	3.60	1.39	2.45	1.18
無職	15.07	3.73	1.55	2.60	1.37
全体	14.52	3.65	1.56	2.60	1.16
n	2756 ***	3027 ***	3115 ***	3115 **	2838 ***

*** p<0.001, ** p<0.01

3.3.1 再就労仮説

まずは再就労仮説から検討してゆこう。日本において子どもをもつ女性は、結婚あるいは第一子出産をもって仕事をやめ、子どもが一定の年齢に達すると、多くはパートなど非正規雇用労働者として働きに出るといったパターンの多いことが知られている。本調査のデータで確認してみよう。表6では、子どもの有無で比較した場合の、女性の年齢別・職業別分布を示している。表の右側「子どもあり」の女性をみると、20代で51.4%、30代で56.3%と、過半数の女性が無職である。そして40代50代と無職の割合が低下してゆき、逆に非正規雇用は30代の17.4%から40代で35.6%、50代で38.3%と増加する。このように、世田谷区の場合も多くは非正規雇用労働者として再就労してゆく様子が確認できた。本調査においても、M字型就労パターンの傾向、すなわち無職（再）就労の傾向をうかがうことができる。

表6 年齢別にみた職業（女性、数値は%）

	子どもなし					子どもあり				
	自営業	常勤	非正規	無職	合計	自営業	常勤	非正規	無職	合計
20代	3.0	46.9	24.9	25.2	100.0	2.9	25.7	20.0	51.4	100
30代	6.6	49.7	30.6	13.0	100.0	7.6	18.8	17.4	56.3	100
40代	13.6	42.4	31.1	13.0	100.0	11.4	16.2	35.6	36.8	100
50代	19.4	36.1	27.1	17.4	100.0	17.1	14.8	38.3	29.8	100
60代	9.8	10.7	24.1	55.4	100.0	16.5	5.2	20.3	58.0	100
70代	13.8	1.7	8.6	75.9	100.0	10.3	1.8	8.5	79.3	100
全体	8.1	41.1	26.7	24.1	100.0	13.3	11.0	24.9	50.8	100
n	111	563	366	330	1370	231	191	432	881	1735

*** p<0.001

さて、我々の仮説からは、再就労によって住民力が低下すると予想されている。女性の50代において観察された住民力の低下は、やはりこの再就労の影響によるものであろうか。表6にもどり、確認してみよう。無職率の差は40代と50代よりも、30代と40代のほうが大きい。30代と40代では20ポイント近い開きがある。同じく30代と40代の間で、自営業は7.6から11.4へ3.8ポイント、非正規雇用は17.4から35.6へと18.2ポイントの上昇をみせている。いっぽう50代では無職の割合が40代に比べて7.0ポイント低下し、非正規雇用の割合が3%ほど増加するにすぎない。20-30代を専業主婦として育児にたずさわってきた女性たちは、40代のあいだに、その多くが非正規雇用のかたちで再就労するものと思われる。

表からは、もっとも住民力の高くなる40代で職業生活への(再)参入が発生していると思われること、50代では、むしろ一般に住民力の高い傾向にある自営業の割合がもっとも高いことなどが確認できる。再就労仮説はもう少し検討の余地がありそうである。

3.3.2 卒業仮説

「卒業仮説」のほうはどうだろうか。表7から、子の年齢層と住民力の関係をみてみよう¹³。B1 支援期待度をのぞくすべての指標が統計的に有意であった。ただし、それぞれの指標で、分布の様相が異なる。まずはA1 親密なネットワークの量からみてみよう。第一子が6歳になり、学齢期を迎えた時期がもっとも高い数値(4.29)を示す。そして子どもの成長とともに少しずつ低下してゆく。A2 橋渡しネットワークでは、第一子が12-17歳と、中高生の時期にもっとも高くなり、18-23歳で若干低下したのちまた上昇に転ずる。B2 地域参加度は、第一子が6歳になったとたん1.21から2.45まで跳ね上がり、18歳になると一気に2.44から1.69まで低下する。これは女性の地域参加のピークが、第一子年齢6-17歳という、子どもの学齢期にあることを示している。これらの指標を合計した住民力全体としてみてみると、0-5歳の未就学期はもっとも低く、6-11歳から12-17歳の時期でもっとも高く、18歳で低下し24歳以降に少し上昇する。図21には、表7のなかから第一子年齢と住民力との関係をとって示した。第一子年齢と女性の住民力の関連を示すグラフは、先にみた女性の年齢別住民力の推移とよく似た形となる。

図表の検討からみるかぎり、卒業仮説は有力であるようにみえる。ただし先の図表は子の年齢で住民力を比較したにとどまる。仮説についての判断を下す前に、子どもと母親の年齢の分布を確認してみよう。子どもがいる女性について、本人の年齢と第一子年齢の割合をクロス表に示した。例えば子どもがいる20代の女性の94.3%は、第一子の年齢が5歳未満であるということを表している。

40代女性では、第一子が18歳以上である人は母親全体の34.8%、1/3強にとどまる。こ

¹³本仮説検証のためには末子年齢での比較がのぞましいが、本年度の調査では子の年齢は第一子のみたずねている。したがってここでは第一子年齢を学齢に従い6歳ごとにまとめ、子の年齢の変数とした。

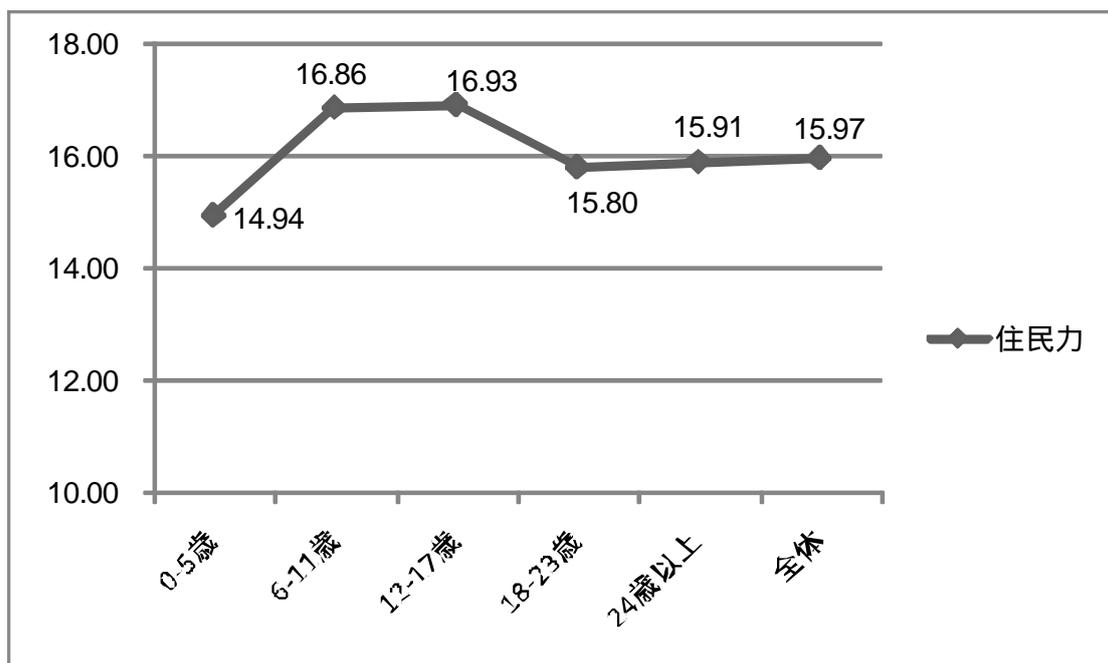
れに対し、50代女性の95.2%で第一子の年齢が18歳以上となっている。第一子が18歳になったとき住民力が大きく変化したことと合わせて考えると、本調査データの検討からは、「卒業仮説」が支持されたといえそうである。女性の社会関係に占める、子どもを介して形成されるネットワークの重要性と、地域への動員力が確認できたといえよう。

表7 第一子年齢と住民力（子どものいる女性）

第一子年齢	住民力	A1 親密なネットワーク	A2 橋渡しネットワーク	B1 支援期待度	B2 地域参加度
0-5歳	14.94	3.94	1.20	2.98	1.21
6-11歳	16.86	4.29	1.70	2.68	2.45
12-17歳	16.93	4.11	2.13	2.42	2.44
18-23歳	15.80	3.72	1.88	2.50	1.69
24歳以上	15.91	3.76	1.96	2.69	1.50
全体	15.97	3.85	1.86	2.68	1.66
n	1504 **	1721 ***	1777 ***	1777	1553 **

*** p<0.001, ** p<0.01

図21 第一子年齢と住民力（子どものいる女性）¹⁴



¹⁴ 1%水準で有意。

表8 女性の年齢と第一子年齢（子どものいる女性のみ）

本人	第一子年齢					合計
	0-5歳	6-11歳	12-17歳	18-23歳	24歳以上	
20代	94.3	5.7	-	-	-	100
30代	56.6	36.2	7.2	-	-	100
40代	6.8	22.7	35.7	29.8	5.0	100
50代	0.3	-	4.6	20.6	74.6	100
60代	0.2	-	-	0.6	99.2	100
70代	-	-	-	-	100.0	100
全体	10.3	8.8	8.4	10.2	62.3	100
n	182	155	149	180	1102	1768

*** p<0.001

表中の数値は%

残された課題は、逆に60代で急激に上昇する女性の住民力について、そのメカニズムを明らかにすることであろう。また、女性の社会関係における「空白の50代」を作らないことも新たに政策的な課題となるかもしれない。子を介したネットワークから地域のネットワークへと、タイムラグを作らずにスムーズに移行できる道筋の構築ということが、今後の地域と行政の双方にとって、一つの課題となりうる可能性が示唆されたといえる。

3.4 「住まい」と住民力

つぎに、「住まい」のありかたと住民力との関係を確認してみたい。昨年度調査では、居住年数が長いことは住民力を高めていた。本年度調査ではどうだろうか。

居住年数別にみた住民力の平均値を図22に示した。男女とも、15年までは居住年数の長い人ほど住民力が高くなる。その後男性は15年から30年の居住者まで低空飛行を続けたのち、30年以上の居住者で住民力が突如高くなる。いっぽう女性は、15年から20年未満まで居住年数が長くなるにつれて住民力の上昇をみせ、20年以上の居住者でいったん谷を迎える。とくに居住年数15-20年未満の層では、男性と女性で対照的な違いがみられる。女性が住民力を高める時期に、男性では住民力が低下してゆく。これは男性がもっとも職業社会に没入し、職業社会の外の人間関係を縮小させる時期に、逆に女性は子どもを介したつきあいを広げてゆくこととも関連があるのであろう。また、図23にみるように、女性の20-25年未満にあらわれる住民力の谷は、20代女性と50代女性という、住民力の低い世代が多く含まれることの影響が大きいようである。居住年数については直線的に右肩上がりの様相ではないため、本年は居住年数をそのまま連続変数として使用することはせず、「30年未満」「30年以上」という分類でカテゴリ化する。

図 22 性別・居住年数と住民力¹⁵

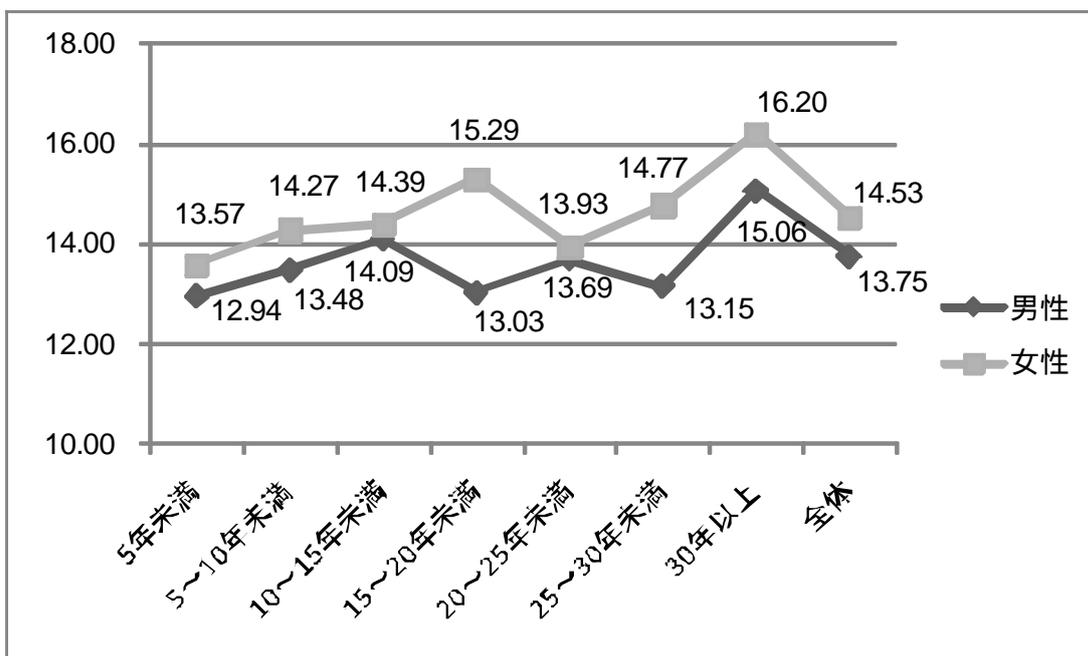
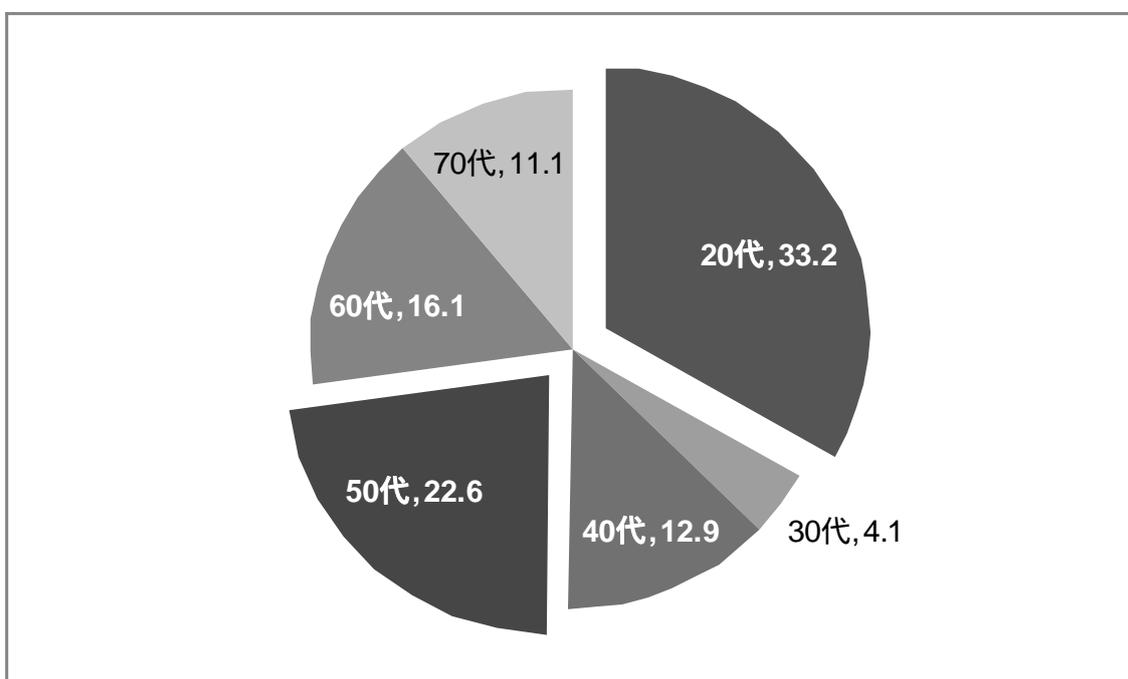


図 23 現住所居住年数 20-25 年未満女性の年齢構成（単位：％）



¹⁵ 0.1%水準で有意。

3.5 住民力が高いのは誰か

それでは、重回帰分析をもちいて、これまでに検討してきた独立変数と社会関係資本量・信頼・住民力との関係を見てみよう。社会関係資本量に関しては、男性において年齢が負の相関を示している。これは図 24 から解釈できるようにも。男性はおもに橋渡しネットワークを増加させることによって、社会関係資本量を増加させていることがわかる。そして橋渡しネットワークは老年期に入ると縮小してゆく。これは明らかに男性が社会経済的な背景に依存してネットワークを維持していることを示している。

表 9 社会関係資本量を従属変数とする重回帰分析結果

	男性	女性
(定数)	***	***
本人年齢	-0.077 **	-0.037
配偶者の有無	0.077 *	0.050 *
子の有無	0.178 ***	0.243 ***
大卒の有無	0.004	0.061 **
三世帯世帯	0.041	0.045 *
居住年数	0.107 ***	0.105 ***
決定係数	0.58	0.85
n	1983	2715

*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05

表 10 信頼を従属変数とする重回帰分析結果

	男性	女性
(定数)	***	***
本人年齢	0.094 **	0.144 ***
配偶者の有無	0.047	0.060 **
子の有無	0.044	0.063 *
大卒の有無	0.097 ***	0.056 **
三世帯世帯	0.042	0.026
居住年数	0.026	0.028
決定係数	0.37	0.48
n	2154	3016

*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05

表 11 住民力を従属変数とする重回帰分析結果

	男性	女性
(定数)	***	***
本人年齢	-0.030	0.027
配偶者の有無	0.078 **	0.061 **
子の有無	0.176 ***	0.230 ***
大卒の有無	0.031	0.069 ***
三世帯世帯	0.053 *	0.048 **
居住年数	0.102 ***	0.104 ***
決定係数	0.71	0.104
n	1978	2704

*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05

図 24 年齢別親密なネットワークと橋渡しネットワーク¹⁶ (2009年：男性)

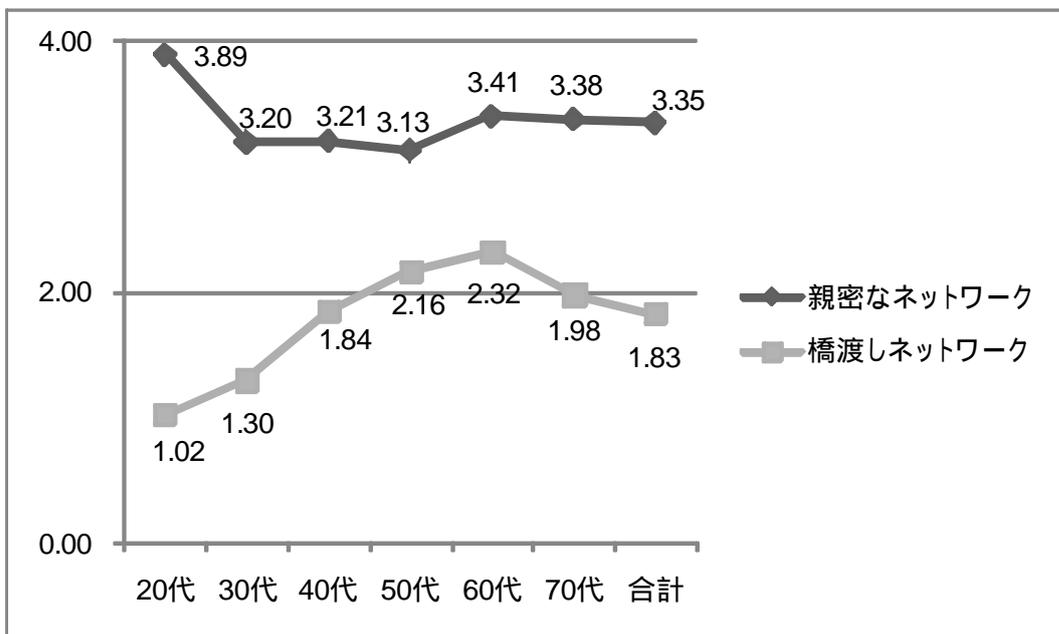
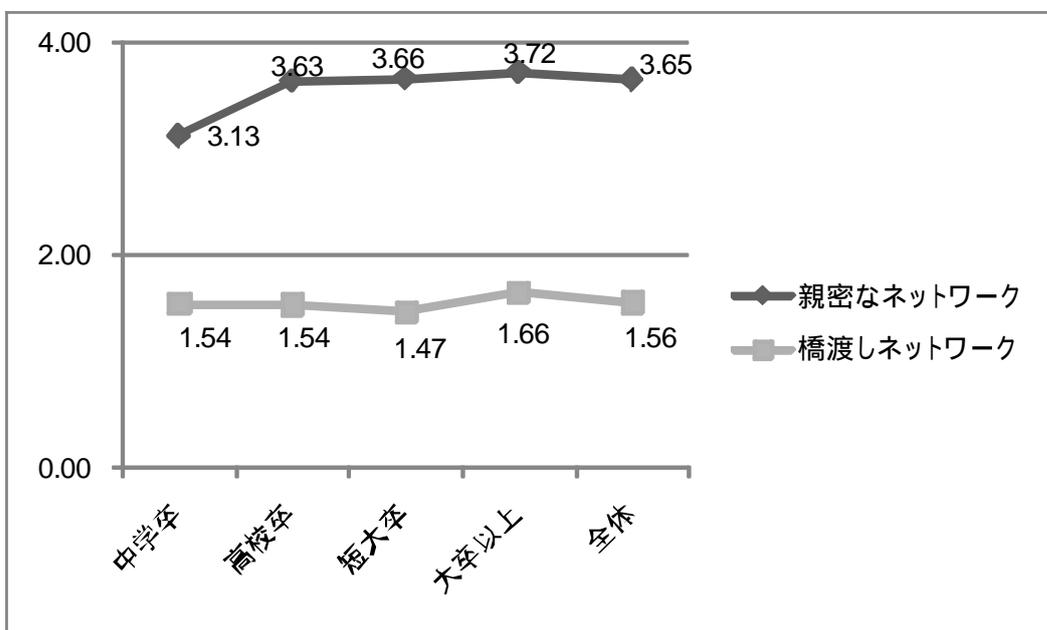


図 25 学歴別親密なネットワークと橋渡しネットワーク¹⁷ (2009年：女性)



¹⁶ いずれも 0.1%水準で有意。

¹⁷ 親密なネットワークのみ、0.1%水準で有意。

また、図 25 に示した通り、女性に学歴の効果があらわれていた。個別に検討すると、女性は学歴が高くなるほど親密なネットワークの規模が拡大する傾向にある。また女性のみ三世帯世帯の効果がみられた。そして男女いずれも、居住年数が効果をもっている。これは昨年度調査と同様の傾向であるといえる。

信頼では、男性の場合に年齢と学歴だけが効果をもっていた。明らかに社会経済的な要因によって信頼が規定されていることがわかる。一方女性の場合は、これらに加えて配偶者の有無・子どもの有無という、家族を形成することの効果が確認できた。

住民力については、女性で学歴の効果があるが、それ以外は男女とも同様である。昨年度同様、年齢は関係しない。配偶者を持ち、子どもを育て、親と同居するという、定住型の生活において住民力は高まるという傾向がはっきりとあらわれている。

これまでの検討から、「家族とともに地域で生活することが住民力を育てる」という昨年度調査でえられた知見が、対象者を若年層にまで広げて実施した本年度調査においても確かめられたといえることができる。むしろ、家族と定住することのもつ効果がより明瞭にあらわれたといえるだろう。

4. 個人の意識・行動と住民力

4.1 コミュニティ・モラル

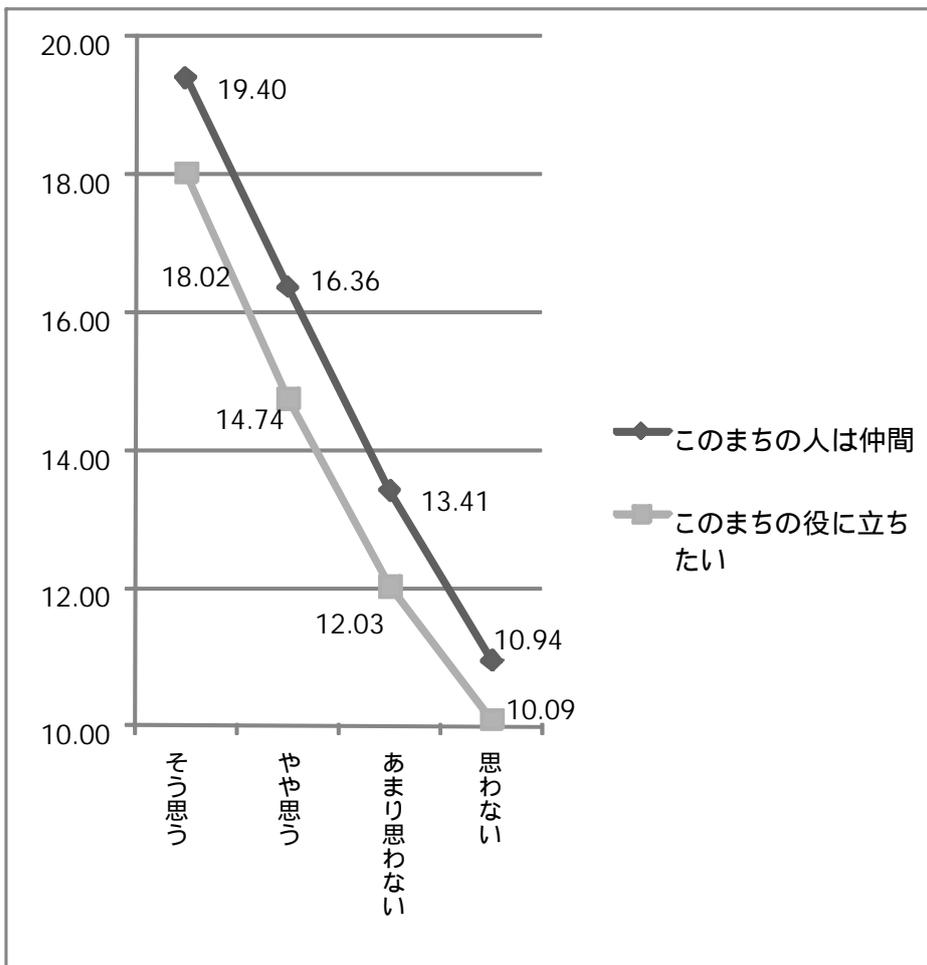
どういう人の住民力が高いのか、という点をこれまでみてきた。ここからは、住民力が人々の行動や意識とどのように関連しているのかをみてゆきたい。まずは地域への心的なかわりからみてゆこう。

ひとびとが自分の住む地域にたいして持つ愛着や参加意欲のことを、ここではコミュニティ・モラル¹⁸と呼ぶ。鈴木広はコミュニティ・モラルについて、認知的要素・感情的要素・意志的要素の三要素に分解できるとしている。コミュニティに対する知識、帰属の感情、参加への意欲といいかえることができよう。このコミュニティ・モラルの構成要素のうち、本調査では帰属感情（愛着）と参加意欲について尋ねた。「このまちの人は仲間だという気がしますか」「このまちの役に立ちたいと思いますか」という2つの設問に、「そう思う」「ややそう思う」「あまり思わない」「思わない」の4件法で回答してもらうという形をとった。

図 26 に、回答別にみた住民力の平均値を示す。帰属感情（愛着）役に立ちたいという意思（参加意欲）のいずれにおいても、住民力との関係が深いことが確認できる。「思わない」と回答した人の平均は 10.94 と 10.09 にとどまるのに対し、「そう思う」と回答した人の平均は 19.40 と 18.02 となっており、コミュニティ・モラルを内面化している度合いと住民力とが密接に結びついていることがわかる。

¹⁸ 鈴木広, 1978, 「コミュニティ論の今日的状況」鈴木広編『コミュニティ・モラルと社会移動の研究』アカデミア出版会:14.

図 26 コミュニティ・モラルと住民力¹⁹



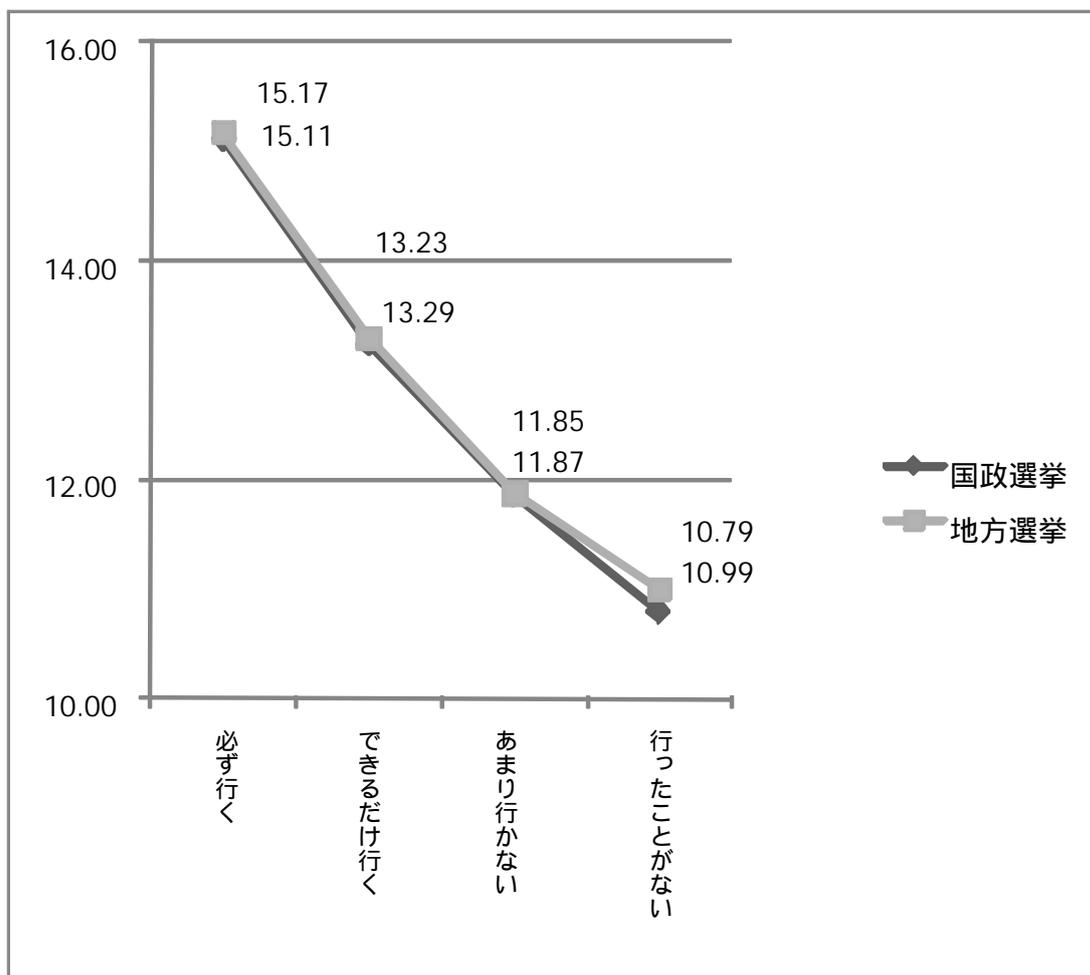
4.2 投票行動

投票行動も、住民力研究の重要な関心事である。国政選挙・地方選挙のそれぞれについて、「必ず行く」「できるだけ行く」「あまり行かない」「行ったことがない」の4件法で回答してもらった。ここでは、投票への参加度と住民力との関係を見てみよう。

図 27 をみると、国政・地方選挙いずれも、ほぼ同じ傾向を示す。「必ず行く」と回答した人々の住民力は、平均で 15.17 および 15.11 であった。これに対し、「行ったことがない」と回答した人の平均は 10.79 と 10.99 であり、コミュニティ・モラルほどではないにせよ、かなりの違いがみられる。人々の住民力は、世田谷区においても政治参加を促していることが確認された。ただしこの知見は、住民力の低い人々（社会関係資本に乏しい人々）の意見が政治に反映されにくいということも示している。これもまた真剣に検討されるべき課題だといえよう。

¹⁹ 0.1%水準で有意。

図 27 投票への参加と住民力²⁰



4.3 地域の生活課題と住民力

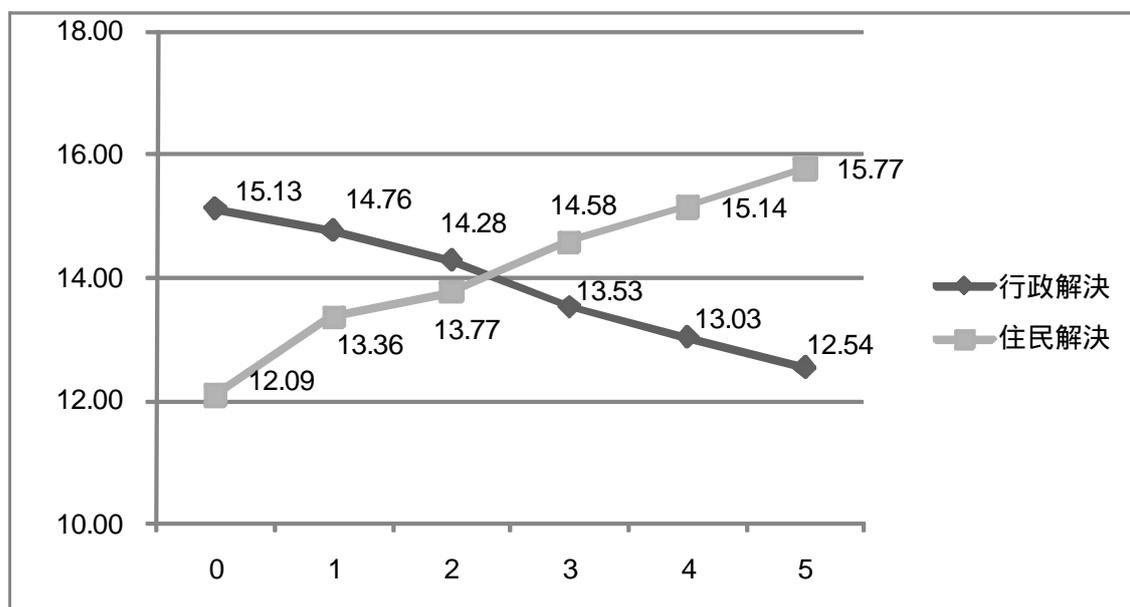
続いて、地域の生活課題に関する意識をみてゆこう。地域でおこる様々な生活課題について、おもにその解決を担うべきなのは誰かという質問をおこなった。生活課題を具体的にイメージしてもらうため、次の五つの例文を用意して、それぞれに対する考え方をたずねている。これらの例文それぞれについて、「行政サービスで対応する」「地域住民の協力で対応する」「それぞれの家族で対応する」の3件から、考えにもっとも近いと思われるものを一つ選んでもらう方法で回答してもらった。この質問群をもとに、ここでは二つの指標を作成している。一、「行政サービスで」と回答した回数を合計し、5点満点の「行政による解決志向」という指標。二、「地域住民の協力で」と回答した回数を合計し、5点満点の「住民による解決志向」という指標。それぞれの指標と住民力との関係を図 28 に示した。

²⁰ 0.1%水準で有意。

表 12 地域の生活課題

災害が発生した場合、避難所での炊き出しはどのようにしたらよいと思いますか。
地域の中で子どもたちが安心して登下校したり、遊んだりできる環境を維持するにはどのようにしたらよいと思いますか
一人暮らしのお年寄りが日常生活でちょっとした手助けを必要としているとき、どのようにしたらよいと思いますか
乳幼児をもった親が急な用事で1~2時間子どもを預けなくてはならなくなった時、誰がみてあげるのがよいと思いますか
あなたのご自宅のすぐ近くに、誰からも親しまれている地域のシンボリックな並木があり、歩道が落ち葉だらけになっています。誰が対応するのがよいと思いますか

図 28 課題解決の志向性と住民力²¹



両者は見事に逆相関の関係になっている。すべての生活課題を行政サービスで対応すべきと回答した人は、住民力の平均値が 12.54 であった。逆に、すべての生活課題について住民の協力による解決と回答した人は、住民力の平均が 15.77 にのぼる。傾向として、住

²¹ 0.1%水準で有意。

民力が高まるほど「行政による解決志向」は弱まり、逆に「住民による解決志向」が強まってゆく。地域の「絆」の再生が、住民による課題解決の機運をも高める可能性を示唆する結果であるといえる。

本項での知見をまとめると、住民力が個人に及ぼす影響を確認した結果、昨年度と同様、コミュニティ・モラル（地域への愛着と参加意欲）を高め、政治参加をうながし、住民による課題解決への志向性を高めることがわかった、ということができる。

5. 住民力と地域特性

5.1 住民力と地域

表 13 出張所・まちづくりセンター地区別の住民力

出張所・まちづくりセンター	社会関係資本量	住民力
池尻まちづくりセンター	9.28	14.83
太子堂出張所	7.55	12.85
若林まちづくりセンター	8.67	14.07
上町まちづくりセンター	8.89	14.34
経堂出張所	8.48	13.87
下馬まちづくりセンター	9.04	14.65
上馬まちづくりセンター	8.28	13.76
梅丘まちづくりセンター	8.29	13.84
代沢まちづくりセンター	9.43	15.46
新代田まちづくりセンター	8.11	13.82
北沢出張所	9.15	14.47
松原まちづくりセンター	8.33	13.97
松沢まちづくりセンター	9.12	14.72
奥沢まちづくりセンター	9.31	15.10
九品仏まちづくりセンター	8.51	14.40
等々力出張所	8.44	14.36
上野毛まちづくりセンター	9.11	15.11
用賀出張所	8.27	13.84
深沢まちづくりセンター	8.49	14.17
祖師谷まちづくりセンター	8.84	14.57
成城出張所	9.04	14.93
船橋まちづくりセンター	8.07	13.65
喜多見まちづくりセンター	9.04	14.85
砧まちづくりセンター	8.82	14.30
上北沢まちづくりセンター	8.91	13.97
上祖師谷まちづくりセンター	8.82	14.20
烏山出張所	7.96	13.43
全体	8.62	14.21
n	4798	4783

** p<0.01, * p<0.05

昨年度調査から、住民力が地域ごとに異なることが確認された。本年度調査のデータでこれを確認してみよう。昨年度調査では地域の単位として、ほぼ中学校区に相当する出張所・まちづくりセンターの地区範囲（以下出張所地区）別の集計を行った。本年度も同様の単位で分析を行っている。表 13 に示した通り、社会関係資本量・住民力ともに地域ごとの違いがみられた。昨年度調査からは、住民力は人口の流動性が高い地域で低く、戸建てが多く定住型生活者が多い地域で高いという傾向が確認されている。この傾向は本年度調査でもみられるのだろうか。

2005 年度の国勢調査データにより地域特性と住民力との相関をみた結果、本年度調査では単身世帯率・核家族比率・戸建て率・上級ホワイトカラー比率が有意であった。昨年度と同様の傾向であるといえる。単身者が少なく、戸建ての割合が高く、上級ホワイトカラーの多い地区で住民力は高い。これは昨年度調査の結果を裏付けるものだが、より詳細にみるため、世帯構成・住宅形態・学歴を独立変数とし、住民力を従属変数とする重回帰分析をおこなった。その結果、他の変数を統制すると、戸建て率のみが有意となる。やはり、住民力は「定住」と深く結びついているということができよう。

表 14 住民力と地域特性の相関分析

	相関係数
人口総数	-.315
人口密度(km2)	-.326
年少人口比率	.329
老年人口比率	.223
単身世帯率	-.437 *
核家族比率	.423 *
戸建て率	.645 ***
持ち家比率	-.027
上級ホワイトカラー比率	.476 *
ブルーカラー比率	-.193
自営業主比率	.095

*** p<0.001, * p<0.05

2005年国勢調査データに基づく（面積はH21年度統計書）

表 15 住民力を従属変数とする重回帰分析結果

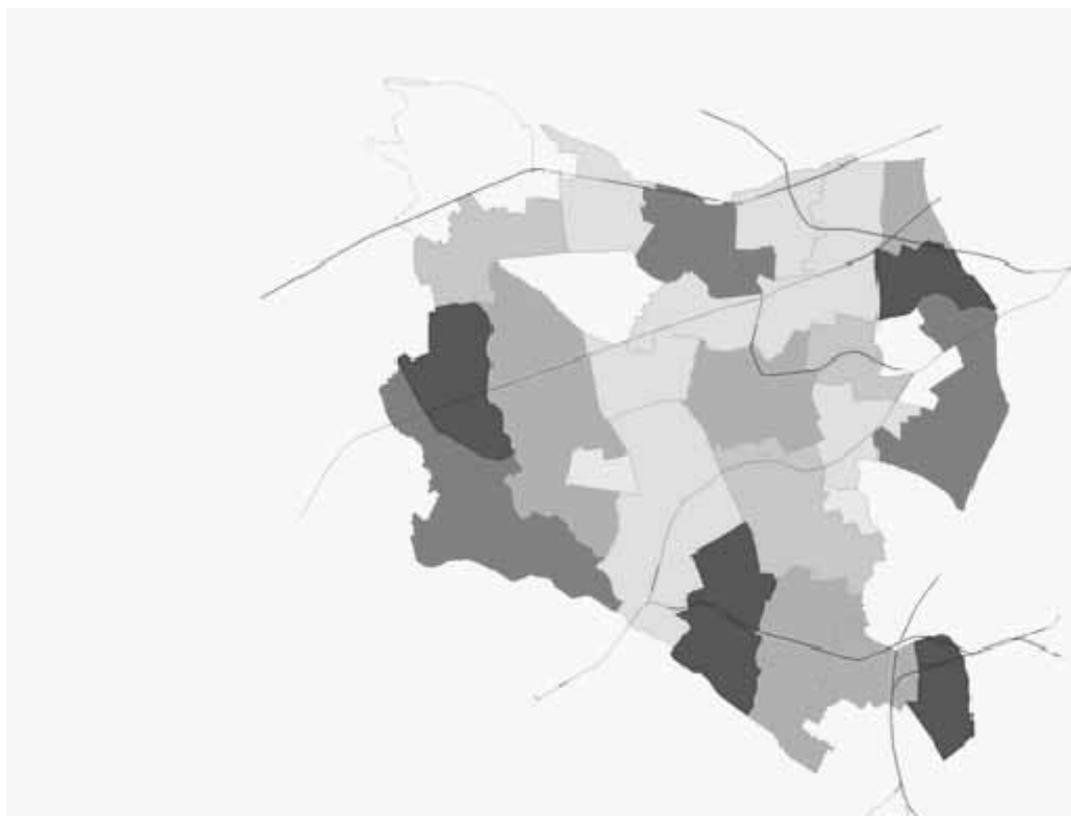
	従属変数：住民力
(定数)	***
戸建て率	0.550 *
上級ホワイトカラー比率	0.038
核家族比率	0.134
決定係数	0.36
n	27

*** p<0.001, * p<0.05

5.2 住民力の分布と戸建て率

図 29 に、住民力の分布を示した。出張所地区で区切った世田谷区の地図を、住民力の高低によって標準偏差と平均値をもちいて 6 段階に色分けしたものである。色が濃くなるほど住民力が高いことを示している。おおむね、古くに開発された住宅地のある地域で高い。これは昨年度の知見と同様である。昨年度の分布（図 30）と比較してみると、昨年度よりもさらに「戸建て率（図 31）」との関係が強く出ているといえる。本年度は調査対象に 20 歳までの若年層を含めることによって、定住型の住宅地と住民の入れ替わりが激しい地域との差がより際立つことになったと考えることができる。

図 29 住民力の分布(2009)



この傾向をよりはっきりとつかむために、住民力のもっとも高い 3 地区ともっとも低い 3 地区だけを抜き出してみよう。すると図 32 のようになる。本年度調査では、もっとも住民力が高かったのは代沢地区であった。次に上野毛地区、そして奥沢地区と続く。いっぽう、住民力をもっとも低かったのは太子堂地区であり、烏山地区と船橋地区がこれに続く。表 16 の出張所地区別戸建て率をみてみよう。奥沢や代沢地区は戸建て率が高い。上野毛地区も比較的高い。逆に太子堂・烏山・船橋の 3 地区はいずれも戸建て率が低いことがわかる。また、上位 3 地区には入らなかったものの、戸建て率の高い成城や祖師谷地区は、住民力においても高いことが図 31 から確認できる。

図 30 住民力 2008

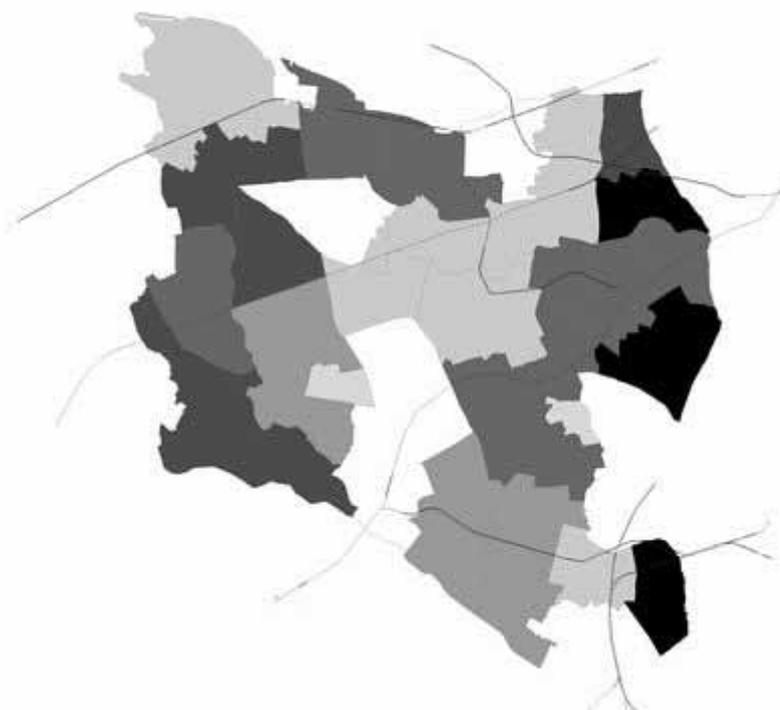


図 31 戸建て率

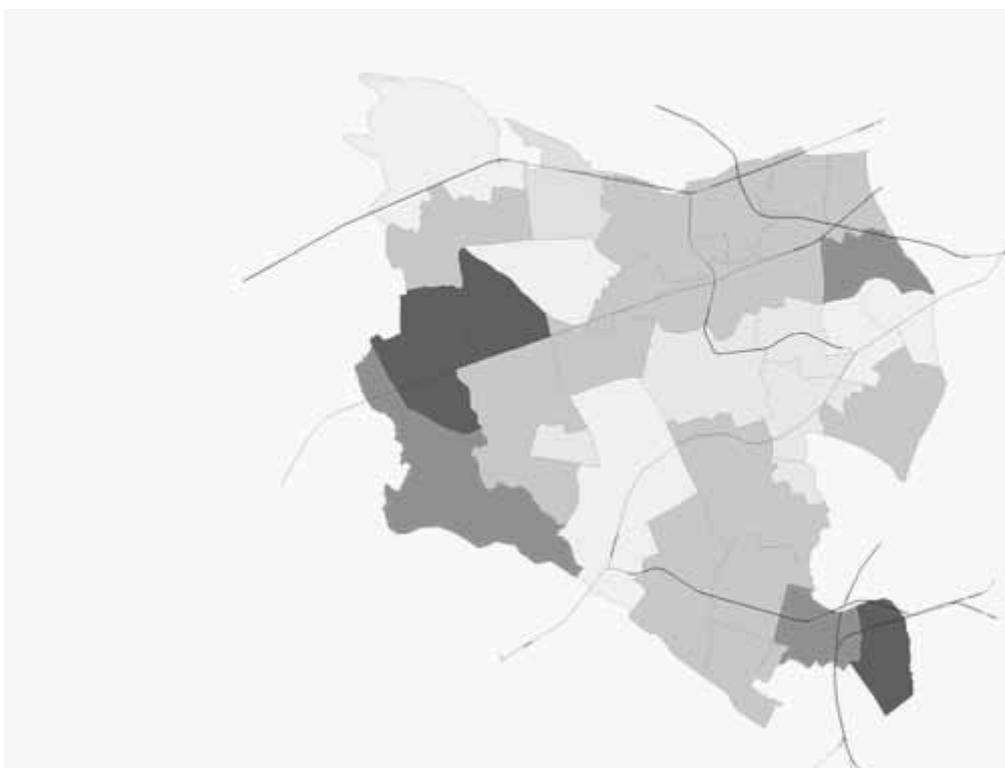


図 32 住民力の高い3地区と低い3地区



表 16 住民力の高い3地区と低い3地区の戸建て率

出張所・まちづくりセンター	戸建て率
代沢まちづくりセンター	36.17
上野毛まちづくりセンター	32.61
奥沢まちづくりセンター	44.02
太子堂出張所	21.83
烏山出張所	22.58
船橋まちづくりセンター	20.91
平均	29.91

5.3 住民力の集合効果

住民力は個人によって高低がある。そしてその高低は、社会的属性によって規定されていることがすでに明らかとなっている。つまり、住民力という点からみて有利な人々と不利な人々とがいる。昨年度調査では、この不利な人々の住民力に対し、その地域の住民力が影響を与えていることがわかった。同じように不利な属性をもつ人であっても、住民力の高い地区に住む人は低い地区に住む人より住民力が高い。住民力の高い地域で生活することは、それだけで住民力を上昇させるきっかけになりうる。これを住民力の集合効果と呼ぶとき、本年度調査でもこの集合効果は確認できるだろうか。図 33 と 34 に示した通り、住民力の最も低い3地区に住む不利な人々に比べて、住民力の高い3地区に住む不利な人々は、男女とも住民力が高い。住民力の集合効果は本年度調査でも確かめられたといえる。

図 33 住民力の集合効果（男性）²²

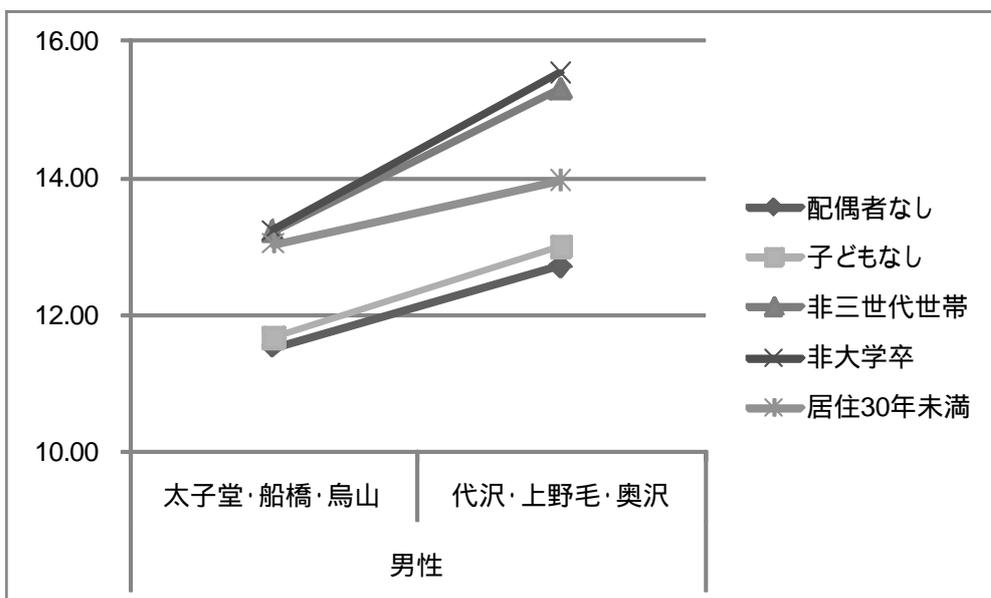
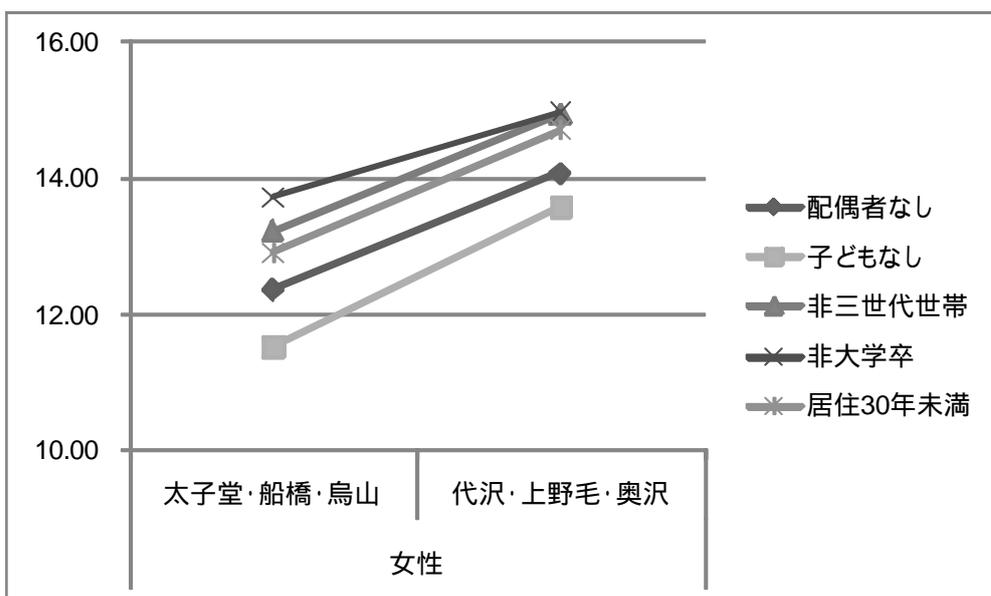


図 34 住民力の集合効果（女性）



5.4 世田谷区の住民力

以上に見てきた本年度の住民力調査について、これまでの分析から得られた結果をまとめてみよう。まずは住民力を構成する各要素についての知見をまとめると、次のようになる。

²² 男性学歴は5%水準で有意、女性学歴は有意でなかった。それ以外の項目についてはすべて0.1%水準で有意。

1. 住民力の構成要素である社会関係資本量のうち、親密なネットワーク量は、男性の場合中年期にもっとも減少する。女性は学歴が高いほど親密なネットワーク量が多い傾向にある。
2. おなじく社会関係資本量のうち、橋渡しネットワーク量は、男性の場合、大卒であることは有意に知り合いの量をふやす。
3. 住民力の構成要素である互酬性における支援期待度は、若年層では親子や友人など「気軽に頼める」支援の関係を比較的豊富にもっている。年齢があがるに従い、親せきや近所の人の支援の関係が増加し、支援の源が「気軽とはいえない」関係に置き換わってゆく。老年期において、親せきや近所などの支援関係が縮小したのち近所の人との関係が重要となってくるが、同時に支援の源としての子どもの重要性は極めて高い。
4. 同じく互酬性における地域参加度は全体に低いが、活発に地域へ参加する人もおり、分散が大きい。
5. 信頼はほぼ昨年と同様、低い信頼の人の割合がさほど高くない。要因分析からは、男女とも年齢があがるほど、また大卒であるとき信頼が高いことがわかった。さらに女性では配偶者の有無や子どもの有無など、家族を形成しているかどうかも関係していた。

そして、住民力全体に関する知見としては、

1. 住民力は配偶者・子どもの有無・三世帯世帯・居住年数など、「住まい」に関わる変数との関連が深い。
2. 住民力は男性と比べて一般に女性のほうが高い。ただし、女性は50代に、子どもを介したネットワークから離れる時期があり、そこで一度住民力が低下する。
3. 住民力の高い人はコミュニティ・モラルが高く、投票行動に積極的であり、地域での問題解決を「地域住民の協力」によって達成しようとする意欲が高い。
4. 住民力は地域特性と結びついている。とりわけ、戸建て率の高さと強く結びついている。
5. 住民力の高い地域では、住民力に関して不利な属性をもつ人々の住民力も、同じような属性を持つ他の地域の人に比べて高い。

昨年度の調査と比較すると、年齢層を幅広く取ったことで、住民力を構成する各要素についての分析をより細かく行うことが可能になった。そしてまた、個人の意識・行動との結びつきや地域特性との結びつきに関して、昨年度の知見が一定の年齢層に限られるものでなく、ひろく20歳以上を対象とした本年度調査においても成り立つことが確認された点はひとつの成果であろう。さらには、地域特性と住民力については、若年層を対象に含めることで、より地域の特性との関係が強くなることになった。世田谷区における住民間コミュニケーションの現在を把握し、今後の政策立案のための基礎資料となりえるという点で、重要な知見がえられたということができよう。

地域の生活課題と住民力に関する調査 '09

この調査は、皆さまと地域社会とのつながりや住民間コミュニケーションの現状を明らかにし、地域に共通の生活課題を解決する力を向上させるための基礎研究として、世田谷区と首都大学東京が共同で行うものです。

調査に関する質問などは、下記までお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

なお、この調査へのご回答によって個人が特定されることはありません。

平成 21 年 9 月

世田谷区政策経営部政策研究担当課
(せたがや自治政策研究所)

首都大学東京大学院人文科学研究科
森岡 ^{キヨシ} 清志研究室

〔お問い合わせ先〕

世田谷区政策経営部政策研究担当課
〒154-8504
世田谷区世田谷 4-21-27 世田谷区役所第一庁舎内
電話番号 : 03-5432-2243
FAX 番号 : 03-5432-3075

〔ご記入にあたってのお願い〕

1. 調査票には、必ず**封筒のあて名のご本人**がご回答・ご記入ください。
2. 回答は、指示にしたがってあてはまる番号に をつけるか、数字をご記入して下さい。
3. ご記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いいたします(ボールペンを同封しています)。
4. 該当する質問には、**すべて**お答えください。
5. 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、質問文をお読みになりご記入ください。
6. この調査票は、**9 月 30 日までに**、同封の封筒に入れてご返送くださるようお願いいたします(差出人名は、無記名で結構です)。

問1 あなたは現在どちらにお住まいですか。町丁目でお答えください。

(記入例) 池尻1丁目・北沢2丁目・駒沢3丁目・船橋4丁目・八幡山5丁目など

丁目

問2 現在の住所にお住まいになって通算して何年になりますか。(無回答84)

1. 5年未満	28.2%	2. 5~10年未満	17.4%	3. 10~15年未満	12.5%
4. 15~20年未満	5.9%	5. 20~25年未満	6.6%	6. 25~30年未満	6.0%
7. 30年以上	23.4%				

問3 世田谷区にお住まいになって通算して何年になりますか。(無回答28)

1. 5年未満	16.8%	2. 5~10年未満	13.1%	3. 10~15年未満	9.6%
4. 15~20年未満	7.0%	5. 20~25年未満	9.7%	6. 25~30年未満	8.2%
7. 30年以上	35.7%				

問4 あなたは15歳のころ、どこにお住まいでしたか。もっとも近い番号にひとつだけをつけてください。(無回答20)

1. 現在の住所に住んでいた	16.9%
2. 現在の住所から、徒歩あるいは自転車圏内	7.3%
3. 現在の住所ではないが、世田谷区内	4.7%
4. 東京23区内	15.7%
5. 東京都内	4.7%
6. 神奈川・埼玉・千葉県内	12.1%
7. その他(海外含む)	38.6%

問5 現在のお住まいは次のどれにあたりますか。あてはまる番号にひとつだけをつけてください。(無回答56)

1. 一戸建て持ち家	45.2%	2. 一戸建て借家	3.1%	3. 分譲マンション	17.6%
4. 賃貸マンション	15.9%	5. 都営・区営住宅	3.9%	6. 社宅・官舎・寮	4.2%
7. アパート	10.1%	8. その他()			0.0%

問6 あなたは現在何歳ですか。(無回答19)

--

歳

20代	15.7%	50代	17.2%
30代	17.6%	60代	21.4%
40代	16.7%	70代	11.5%

問7 あなたは男性ですか、女性ですか。(無回答14)

1. 男性	41.6%	2. 女性	58.4%
-------	-------	-------	-------

問 8 現在あなたに配偶者はいらっしゃいますか（事実婚も含みます）。あてはまる番号に**ひとつだけ**をつけてください。（無回答 15）

- 1. いる 63.8%
- 2. いない（離別） 5.7%
- 3. いない（死別） 4.5%
- 4. 結婚したことがない（未婚） 26.1%

配偶者の方は何歳ですか。

.

歳

問 9 **ご結婚されたことのある方におうかがいします。**あなたが最初に結婚されたのは何歳のときですか。

.

歳

問 10 あなたの世帯は、次のうちどれにあたりますか。あてはまる番号に**ひとつだけ**をつけてください。（無回答 55）

- 1. 一人のみ世帯（誰とも同居していない） 16.5%
- 2. 夫婦のみ世帯 23.0%
- 3. 夫婦と子どもの世帯 40.8%
- 4. 3世代世帯（例えば、親と夫婦と子ども、夫婦と子ども夫婦と孫） 8.5%
- 5. 父子・母子世帯 6.0%
- 6. 上記以外で親族と同居している世帯（きょうだい、親と子ども夫婦など） 3.5%
- 7. 親族以外の方と同居している世帯 1.8%
- 8. その他（ ） 0.0%

問 11 あなたのご両親についておうかがいします。配偶者がいらっしゃる方は配偶者のご両親についてもお答えください。

	あなたの父親	あなたの母親	配偶者の父親	配偶者の母親
(1) どちらにお住まいですか	1.同居・同じ敷地 12.2% 2. 15分以内 2.0% 3. 15～30分以内 1.8% 4. 30分～1時間以内 4.9% 5. 1～2時間以内 7.6% 6. 2時間以上 19.9% 7.亡くなった 51.5% (無回答 106)	1.同居・同じ敷地 17.6% 2. 15分以内 2.8% 3. 15～30分以内 2.9% 4. 30分～1時間以内 6.6% 5. 1～2時間以内 10.2% 6. 2時間以上 24.8% 7.亡くなった 35.1% (無回答 56)	1.同居・同じ敷地内 2.7% 2. 15分以内 2.6% 3. 15～30分以内 2.6% 4. 30分～1時間以内 5.5% 5. 1～2時間以内 7.7% 6. 2時間以上 17.4% 7.亡くなった 61.6% (非該当 1969 無回答 76)	1.同居・同じ敷地内 6.1% 2. 15分以内 3.8% 3. 15～30分以内 3.6% 4. 30分～1時間以内 8.5% 5. 1～2時間以内 10.8% 6. 2時間以上 25.8% 7.亡くなった 41.3% (非該当 1969 無回答 55)
以下は、生存している方についてのみお答えください。				
(2) どの程度会っていますか	1. ほとんど毎日 24.2% 2. 少なくとも週 1 回 6.5% 3. 少なくとも月 1 回 14.8% 4. 年に 1～6 回程度 46.5% 5. ほとんど会わない 8.0% (非該当 2753 無回答 113)	1. ほとんど毎日 28.2% 2. 少なくとも週 1 回 7.9% 3. 少なくとも月 1 回 15.5% 4. 年に 1～6 回程度 43.3% 5. ほとんど会わない 5.2% (非該当 1893 無回答 79)	1. ほとんど毎日 5.3% 2. 少なくとも週 1 回 6.3% 3. 少なくとも月 1 回 16.5% 4. 年に 1～6 回程度 58.2% 5. ほとんど会わない 13.7% (非該当 4066 無回答 88)	1. ほとんど毎日 9.8% 2. 少なくとも週 1 回 7.2% 3. 少なくとも月 1 回 16.5% 4. 年に 1～6 回程度 54.2% 5. ほとんど会わない 12.3% (非該当 3384 無回答 77)

問 12 お子さんは何人いらっしゃいますか。いらっしゃらない場合は「0」人とご記入ください。

お子さんがいらっしゃる方は、一番うえのお子さんの年齢をご記入ください。

人

一番うえのお子さん

歳

問 13 お子さんがいらっしゃる方におうかがいします。お子さんは現在どちらにお住まいですか。通常
の交通手段でかかる時間別にご記入ください。該当しない箇所には、必ず「0」人とご記入ください。

同居・同じ敷地内(無回答 32) (0.65)人	15分以内(無回答 79) (0.06)人
15～30分以内(無回答 80) (0.06)人	30分～1時間以内(無回答 72) (0.12)人
1～2時間以内(無回答 80) (0.11)人	2時間以上(無回答 82) (0.09)人

問 14 以下のような方々は、それぞれの場所に何人いらっしゃいますか。通常
の交通手段でかかる時間別にご記入ください。該当しない箇所には、必ず「0」人とご記入ください。

(1) あなたのきょうだい(無回答 50)

同居・同じ敷地内 (0.15)人	15分以内 (0.08)人	15～30分以内 (0.08)人
30分～1時間以内 (0.24)人	1～2時間以内 (0.42)人	2時間以上 (0.65)人

(2) あなたの配偶者のきょうだい(配偶者のいる方だけ、ご記入ください。)(無回答 30)

同居・同じ敷地内 (0.03)人	15分以内 (0.05)人	15～30分以内 (0.06)人
30分～1時間以内 (0.17)人	1～2時間以内 (0.30)人	2時間以上 (0.49)人

(3) 親、子、きょうだい以外で親しくしている親せき(無回答 50)

同居・同じ敷地内 (0.06)人	15分以内 (0.21)人	15～30分以内 (0.15)人
30分～1時間以内 (0.34)人	1～2時間以内 (0.63)人	2時間以上 (1.11)人

問 15 あなたが親しくしている友人の方は、それぞれの場所に何人いらっしゃいますか。通常の交通手段でかかる時間別にご記入ください。該当しない箇所には、必ず「0」人をご記入ください。

同居・同じ敷地内(無回答 79) (0.15)人	15分以内(無回答 99) (1.27)人
15～30分以内(無回答 91) (1.24)人	30分～1時間以内(無回答 94) (2.04)人
1～2時間以内(無回答 94) (2.25)人	2時間以上(無回答 93) (1.95)人

問 16 いまあげていただいた友人の方の中に、次のような方はいらっしゃいますか。(a)~(g)のそれぞれについて、「1. いる」「2. いない」のいずれかに をつけてください。

(a) 小・中学校時代の友人(無回答 48)	1. いる 46.5%	2. いない 53.5%
(b) 高校・専門学校や大学時代の友人(無回答 48)	1. いる 63.0%	2. いない 37.0%
(c) 職場や仕事関係の友人(無回答 46)	1. いる 59.3%	2. いない 40.7%
(d) スポーツや趣味などを通じた友人(無回答 45)	1. いる 38.8%	2. いない 61.2%
(e) 子供を介して知り合った友人(無回答 48)	1. いる 26.6%	2. いない 73.4%
(f) インターネットで知り合った友人(無回答 50)	1. いる 3.2%	2. いない 96.8%
(g) 近所の友人(無回答 41)	1. いる 33.0%	2. いない 67.0%

問 17 あなたは次にあげる団体やサークルに加入していますか。(a)～(i)のそれぞれについて、「1. 役員をしている(していた)」「2. 加入して積極的に参加(していた)」「3. 加入はしている(していた)」「4. 非加入」のいずれか**ひとつだけ**に をつけてください。

(a)町会・自治会 (無回答104)	1. 役員をしている(していた) 5.1% 2. 加入して積極的に参加(していた) 1.6% 3. 加入はしている(していた) 37.0% 4. 非加入 56.3%
(b)高齢者クラブ (無回答107)	1. 役員をしている(していた) 0.4% 2. 加入して積極的に参加(していた) 0.5% 3. 加入はしている(していた) 1.4% 4. 非加入 97.7%
(c) P T A ・おやじの会 (無回答107)	1. 役員をしている(していた) 5.7% 2. 加入して積極的に参加(していた) 2.6% 3. 加入はしている(していた) 7.6% 4. 非加入 84.1%
(d)消費者団体 (無回答108)	1. 役員をしている(していた) 0.2% 2. 加入して積極的に参加(していた) 0.2% 3. 加入はしている(していた) 1.9% 4. 非加入 97.7%
(e)業界団体・同業者団体 (無回答111)	1. 役員をしている(していた) 2.4% 2. 加入して積極的に参加(していた) 1.8% 3. 加入はしている(していた) 6.4% 4. 非加入 89.4%
(f)ボランティア、NPO、 市民活動などの団体やサークル (無回答109)	1. 役員をしている(していた) 2.1% 2. 加入して積極的に参加(していた) 4.2% 3. 加入はしている(していた) 5.1% 4. 非加入 88.6%
(g)スポーツのサークル (無回答106)	1. 役員をしている(していた) 2.3% 2. 加入して積極的に参加(していた) 8.2% 3. 加入はしている(していた) 10.4% 4. 非加入 79.1%
(h)趣味や文化のサークル (無回答108)	1. 役員をしている(していた) 2.2% 2. 加入して積極的に参加(していた) 8.9% 3. 加入はしている(していた) 13.0% 4. 非加入 75.9%
(i)子育てに関するサークル (無回答106)	1. 役員をしている(していた) 0.6% 2. 加入して積極的に参加(していた) 1.9% 3. 加入はしている(していた) 3.4% 4. 非加入 94.1%

問 18 次にあげる活動を、あなたはどの程度なさっていますか。次の(a)~(l)のそれぞれについて、もっとも近いものに**ひとつだけ** をつけてください。

	必ず行く・参加する	できるだけ行く・参加する	あまり行かない・参加しない	行ったことがない・参加したことがない
(a) 地域のお祭り(無回答 173)	1 7.0%	2 29.3%	3 41.4%	4 22.3%
(b) 地域での公園や道路の掃除(無回答 209)	1 2.3%	2 7.2%	3 15.9%	4 74.7%
(c) 町会・自治会の会合(無回答 188)	1 3.1%	2 6.2%	3 13.0%	4 77.7%
(d) 青少年育成に関する活動(無回答 240)	1 0.6%	2 3.4%	3 9.7%	4 86.3%
(e) 健康づくり活動(無回答 217)	1 1.2%	2 5.9%	3 12.9%	4 80.0%
(f) リサイクル・バザー活動(無回答 213)	1 1.4%	2 10.7%	3 22.0%	4 65.9%
(g) 防犯に関する活動(無回答 218)	1 1.3%	2 5.8%	3 13.8%	4 79.1%
(h) 防災訓練(無回答 211)	1 2.3%	2 10.8%	3 16.7%	4 70.2%
(i) 子どもの見守りに関する活動(無回答 220)	1 1.7%	2 7.8%	3 11.8%	4 78.7%
(j) みどりの普及活動(無回答 330)	1 0.9%	2 3.5%	3 11.0%	4 84.6%
(k) 国政選挙の投票(無回答 122)	1 67.0%	2 20.2%	3 4.6%	4 8.2%
(l) 地方選挙の投票(無回答 137)	1 64.6%	2 21.0%	3 5.4%	4 8.9%

問 19 あなたのご自宅の近所に商店街はありますか。(無回答 9)

1. ある 81.9%	2. ない 18.1%
-------------	-------------

問 20 あなたはご町内の商店街で、どのくらい買い物をされますか。(無回答 13)

1. 週に数回 48.0%	2. 月に数回 24.6%
3. 年に数回 8.0%	4. ほとんどしない 19.4%

(無回答 50)

--	--	--

枚くらい 平均 52.08 枚

問 25 あなたがお住まいのご町内で、道で会えばあいさつするような人は何人くらいいらっしゃいますか。もっとも近い番号に**ひとつだけ** をつけてください。(無回答 40)

1. 0人 7.6%	2. 1~3人 23.1%	3. 4~6人 22.0%	4. 7~9人 12.6%
5. 10~14人 16.7%	6. 15~19人 4.6%	7. 20人以上 13.3%	

問 26 あなたがお住いのご町内で、次のようなおつきあいをされている方はそれぞれ何人くらいいらっしゃいますか。(a)~(c)のそれぞれについて、人数をご記入ください。**いらっしゃらない場合は「0」人とご記入ください。**

(a) 立ち話をする人(無回答 55)

平均 3.94人 人くらい

(b) 家にあがって話をする人(無回答 55)

平均 0.96人 人くらい

(c) 旅行に行った時に、お土産を買ってくる人(無回答 55)

平均 1.33人 人くらい

問 27 人からこのまちの悪口を言われたら、何か自分の悪口をいわれたような気になりますか。もっとも近い番号に**ひとつだけ** をつけてください。(無回答 38)

1. そう思う 13.5%	2. やや思う 39.9%
3. あまり思わない 31.8%	4. 思わない 14.8%

問 28 このまちの人たちはみんな仲間だという気がしますか。もっとも近い番号に**ひとつだけ** をつけてください。(無回答 36)

1. そう思う 4.9%	2. やや思う 30.6%
3. あまり思わない 49.7%	4. 思わない 14.8%

問 29 このまちのためになることをして何か役に立ちたいと思いますか。もっとも近い番号に**ひとつだけ** をつけてください。(無回答 42)

1. そう思う 13.9%	2. やや思う 54.5%
3. あまり思わない 25.9%	4. 思わない 5.7%

問 30 一週間くらい家をあけるような時に、同居のご家族以外で留守を頼める人はいますか。

想定でも結構ですから次の1~3の中から**ひとつだけ**選び、をつけて下さい。1と2に をつけた方はその人についてもお答えください。(無回答 39)

- 1. 気軽に頼める人がいる 34.0%
- 2. 気軽にはいえませんが頼める人はいる 30.7%
- 3. 頼める人はいない 35.2%

その人はどのような人ですか。最も頼みやすい人をひとつだけ選び、をつけてください。
(非該当 1907 無回答 86)

- 1. 別居している親または子 30.1%
- 2. 近所の人 23.5%
- 3. 親せき (きょうだい、おじ・おば、いとこなど) 29.4%
- 4. 友人 15.1%
- 5. 同じ職場の人,または仕事関係の人 1.9%

問 31 ご家族の誰かが入院した時に、同居のご家族以外で手伝いを頼める人はいますか。
想定でも結構ですから次の1~3の中から**ひとつだけ**選び、をつけて下さい。1と2に をつけた方はその人についてもお答えください。(無回答 38)

- 1. 気軽に頼める人がいる 36.9%
- 2. 気軽にはいえませんが頼める人はいる 39.1%
- 3. 頼める人はいない 24.0%

その人はどのような人ですか。最も頼みやすい人をひとつだけ選び、をつけてください。
(非該当 1297 無回答 88)

- 1. 別居している親または子 36.2%
- 2. 近所の人 6.8%
- 3. 親せき (きょうだい、おじ・おば、いとこなど) 40.3%
- 4. 友人 15.1%
- 5. 同じ職場の人,または仕事関係の人 1.6%

問 32 資産の運用や借金などお金のことについて、同居のご家族以外で相談できる人はいますか。
想定でも結構ですから次の1~3の中から**ひとつだけ**選び、をつけて下さい。1と2に をつけた方はその人についてもお答えください。(無回答 56)

- 1. 遠慮なく相談できる人がいる 26.3%
- 2. 相談できる人はいる 38.6%
- 3. 相談できる人はいない 35.1%

その人はどのような人ですか。最も頼みやすい人をひとつだけ選び、をつけてください。
(非該当 1892 無回答 91)

- 1. 別居している親または子 40.0%
- 2. 近所の人 1.1%
- 3. 親せき (きょうだい、おじ・おば、いとこなど) 30.6%
- 4. 友人 21.6%
- 5. 同じ職場の人,または仕事関係の人 6.7%

問 33 日頃からおしゃべりしたり一緒に出かけたりする人はいますか。
想定でも結構ですから次の1~3の中から**ひとつだけ**選び、をつけて下さい。1と2に をつけた方はその人についてもお答えください。(無回答 25)

- 1. 気軽に誘える人がいる 58.6%
- 2. 誘える人はいる 28.5%
- 3. 誘える人はいない 12.8%

その人はどのような人ですか。最も頼みやすい人をひとつだけ選び、をつけてください。
(非該当 696 無回答 79)

- 1. 別居している親または子 9.9%
- 2. 近所の人 4.3%
- 3. 親せき (きょうだい、おじ・おば、いとこなど) 9.9%
- 4. 友人 69.7%
- 5. 同じ職場の人,または仕事関係の人 6.1%

問 34 個人的な悩みごとについて、同居のご家族以外で相談できる人はいますか。

想定でも結構ですから次の1~3の中から**ひとつだけ**選び、 をつけて下さい。1と2に をつけた方はその人についてもお答えください。(無回答 42)

- 1. 気軽に相談できる人がいる 51.2%
- 2. 気軽にはとはいえないが相談できる人はいる 34.0%
- 3. 相談できる人はいない 14.7%

その人はどのような人ですか。最も頼みやすい人を**ひとつだけ**選び、 をつけてください。
(非該当 797 無回答 86)

- 1. 別居している親または子 15.5%
- 2. 近所の人 2.0%
- 3. 親せき (きょうだい、おじ・おば、いとこなど) 15.8%
- 4. 友人 60.6%
- 5. 同じ職場の人,または仕事関係の人 6.1%

問 35 何かあったときに話をきいて、専門家など頼りになる方を**紹介してくれる**ような人はいますか。想定でも結構ですから次の1~3の中から**ひとつだけ**選び、 をつけて下さい。1と2に をつけた方はその人についてもお答えください。(無回答 54)

- 1. 確実に紹介してくれる人がいる 28.5%
- 2. 紹介してくれそうな人はいる 48.0%
- 3. 頼める人はいない 23.6%

その人はどのような人ですか。最も頼みやすい人を**ひとつだけ**選び、 をつけてください。
(非該当 1273 無回答 125)

- 1. 別居している親または子 15.2%
- 2. 近所の人 3.9%
- 3. 親せき (きょうだい、おじ・おば、いとこなど) 21.0%
- 4. 友人 42.4%
- 5. 同じ職場の人,または仕事関係の人 17.6%

問 36 次あげる方々の中で、あなたが話をするようなお知り合いはいらっしゃいますか。(a)~(l)のそれぞれについて、「1. いる」「2. いない」の**いずれかに** をつけてください。

(a) 町内会・自治会の役員 (無回答 58)	1. いる 22.2%	2. いない 77.8%
(b) ボランティア団体・市民運動団体の役員 (無回答 59)	1. いる 10.4%	2. いない 89.6%
(c) 業界団体・同業者団体の役員 (無回答 58)	1. いる 10.4%	2. いない 89.6%
(d) 区役所の職員 (無回答 59)	1. いる 6.7%	2. いない 93.3%
(e) 市区町村の首長 (区長、市長など) (無回答 59)	1. いる 1.8%	2. いない 98.2%
(f) 地方議会議員 (区議、都議など) (無回答 58)	1. いる 9.6%	2. いない 90.4%
(g) 国会議員 (無回答 58)	1. いる 4.8%	2. いない 95.2%
(h) 政治家後援会役員、議員秘書 (無回答 58)	1. いる 5.0%	2. いない 95.0%
(i) 新聞・テレビ等の記者・ディレクター・編集者 (無回答 59)	1. いる 13.5%	2. いない 86.5%
(j) 医師、歯科医師 (無回答 60)	1. いる 41.6%	2. いない 58.4%
(k) 弁護士 (無回答 59)	1. いる 19.7%	2. いない 80.3%
(l) 商店街の店主 (無回答 59)	1. いる 23.5%	2. いない 76.5%

問 37 災害が発生した場合、避難所での炊き出しはどのようにしたらよいと思いますか。もっとも近い番号に**ひとつだけ** をつけてください。(無回答 50)

- | | |
|-----------------|-------|
| 1. 行政サービスで対応する | 45.5% |
| 2. 地域住民の協力で対応する | 51.2% |
| 3. それぞれの家族で対応する | 3.3% |

問 38 地域の中で子どもたちが安心して登下校したり、遊んだりできる環境を維持するにはどのようにしたらよいと思いますか。もっとも近い番号に**ひとつだけ** をつけてください。(無回答 66)

- | | |
|-----------------|-------|
| 1. 行政サービスで対応する | 23.2% |
| 2. 地域住民の協力で対応する | 72.0% |
| 3. それぞれの家族で対応する | 4.8% |

問 39 一人暮らしのお年寄りが日常生活でちょっとした手助けを必要としているとき、どのようにしたらよいと思いますか。もっとも近い番号に**ひとつだけ** をつけてください。(無回答 54)

- | | |
|-----------------|-------|
| 1. 行政サービスで対応する | 53.1% |
| 2. 地域住民の協力で対応する | 40.7% |
| 3. それぞれの家族で対応する | 6.2% |

問 40 乳幼児をもった親が急な用事で 1~2 時間子どもを預けなくてはならなくなった時、誰がみてあげるのがよいと思いますか。もっとも近い番号に**ひとつだけ** をつけてください。(無回答 72)

- | | |
|-----------------|-------|
| 1. 行政サービスで対応する | 41.8% |
| 2. 地域住民の協力で対応する | 30.5% |
| 3. それぞれの家族で対応する | 27.7% |

問 41 あなたのご自宅のすぐ近くに、誰からも親しまれている地域のシンボリックな並木があり、歩道が落ち葉だらけになっています。誰が対応するのがよいと思いますか。もっとも近い番号に**ひとつだけ** をつけてください。(無回答 60)

- | | |
|-----------------|-------|
| 1. 行政サービスで対応する | 28.9% |
| 2. 地域住民の協力で対応する | 65.8% |
| 3. それぞれの家族で対応する | 5.3% |

問 42 世田谷区の環境施策として、特に取り組むべきと思われるものを、3 つまで選び、あてはまる番号に をつけてください。(無回答 55)

- 1. 二酸化炭素排出削減など、地球温暖化対策 28.8%
- 2. 自動車公害、野外焼却、大気汚染、騒音、振動など、公害防止対策 36.2%
- 3. ごみの減量・リサイクル、資源回収など、省資源の推進 45.8%
- 4. ダイオキシン・アスベストなど、有機化学物質対策 11.8%
- 5. 都市の緑や水、多様な動植物など、自然環境の保全・創出 47.2%
- 6. ポイ捨て、歩きタバコ、落書き防止など、生活環境の改善 45.4%
- 7. 美しい街並み、風景の保全・創出 34.1%
- 8. 建築・開発に伴う地域環境への配慮の促進 23.0%
- 9. 環境学習・環境教育の推進 13.8%
- 10. 特になし 1.2%

問 43 地球温暖化問題について、あなた自身に関わる問題だと思いますか。あてはまる番号にひとつだけ をつけてください。(無回答 41)

- 1. そう思う 60.1%
- 2. やや思う 32.9%
- 3. あまり思わない 5.3%
- 4. 思わない 1.7%

問 44 地球温暖化問題について、主に責任を負うべきなのは誰だと思いますか。あてはまる番号にひとつだけ をつけてください。(無回答 84)

- 1. 国 49.8%
- 2. 地方自治体 3.9%
- 3. 企業 21.2%
- 4. 個人 25.2%

問 45 あなたはタバコを吸いますか。吸う方は一日に吸う本数もご記入ください。(無回答 40)

- 1. 吸う 20.9%・・・一日(平均 16.12)本くらい(非該当 4279 無回答 54)
- 2. 吸わない 79.1%

問 46 タバコを吸う方におうかがいします。あなたは次のような行動をとることがありますか。それぞれもっとも近い番号にひとつだけ をつけてください。

	しばしばある	ときどきある	あまりない	まったくない
(a) 歩行中の喫煙(非該当 4279 無回答 46)	1 10.9%	2 25.7%	3 18.1%	4 45.2%
(b) 吸いがらのポイ捨て(非該当 4279 無回答 54)	1 3.5%	2 10.6%	3 18.7%	4 67.2%

問 47 あなたは**環境に配慮して**、マイカーに乗るのを控え、公共交通機関や自転車を利用することがあります。もっとも近い番号に**ひとつだけ** をつけてください。(無回答 64)

1. よく利用している	36.8%
2. ときどき利用している	12.6%
3. たまに利用している	11.3%
4. 利用したことがない	3.1%
5. マイカーを持っていない	36.2%

問 48 あなたは**環境に配慮して**、次のような行動をされていますか。(a)~(j)のそれぞれについて、もっとも近い番号に**ひとつだけ** をつけてください。

	実行		実行していない									
	るいつも実行している	いるときどき実行している	実行していません	時間がかかるので実行していません	いきいので実行していません	経済的な負担が大い	ない	手間・労力がかか	るので実行していません	思わなかつたので実行していません	環境に役立つとは	行していません
(a) こまめに電気を消している。 (無回答 102)	1 58.9%	2 37.2%	3 0.4%	4 0.1%	5 1.8%	6 0.6%	7 1.0%					
(b)風呂の残り水などを、洗濯や植物への散水などに利用している。 (無回答 221)	1 30.3%	2 23.2%	3 11.2%	4 0.8%	5 24.5%	6 2.7%	7 7.3%					
(c)庭やベランダ、生垣など、家で緑をふやす工夫をしている。 (無回答 216)	1 31.5%	2 30.1%	3 7.2%	4 5.3%	5 14.7%	6 1.5%	7 9.8%					
(d)買い物するときは、マイバッグを持参している。(無回答 129)	1 36.6%	2 42.1%	3 1.7%	4 0.5%	5 9.5%	6 3.3%	7 6.3%					
(e)天ぷら等に使った油をそのまま流さないようにしている。 (無回答 213)	1 76.9%	2 11.5%	3 1.4%	4 0.3%	5 4.3%	6 0.5%	7 5.2%					
(f)ごみ出しのルールを守っている。 (無回答 84)	1 94.9%	2 3.9%	3 0.1%	4 0.0%	5 0.3%	6 0.2%	7 0.6%					
(g)日用品については、環境への配慮を意識して購入している。 (無回答 137)	1 30.6%	2 46.9%	3 1.9%	4 5.0%	5 3.4%	6 4.8%	7 7.3%					
(h)緑を守り育てるボランティア活動や地域活動に参加している。 (無回答 272)	1 2.7%	2 8.4%	3 40.9%	4 1.6%	5 22.6%	6 1.4%	7 22.3%					
(i)インターネットや新聞などを通じて、環境についての情報収集に努めている。(無回答 213)	1 6.5%	2 30.1%	3 22.1%	4 1.1%	5 15.1%	6 3.1%	7 22.0%					
(j)環境に関するイベントや学習講座などに参加している。 (無回答 230)	1 1.5%	2 8.2%	3 41.4%	4 1.4%	5 18.2%	6 2.4%	7 26.9%					

問 49 以下の質問のそれぞれについて、あてはまる番号に**ひとつだけ** をつけてください。

なお、**配偶者がいらっしゃらない場合は「あなた」の欄だけお答えください。**

	あなた	配偶者 (非該当 1969)
(1) 最後に卒業した学校はどちらですか (在学中も) 【はひとつ】	1. 新制中学校又は旧制尋常・高等小学校 5.6% 2. 新制高等学校 24.5% 3. 短大・高専 21.9% 4. 大学・大学院 48.0% (無回答 101)	1. 新制中学校又は旧制尋常・高等小学校 5.2% 2. 新制高等学校 23.0% 3. 短大・高専 17.7% 4. 大学・大学院 54.1% (無回答 126)
(2) 現在のお仕事についておうかがいします。どのような形で働いていらっしゃいますか。 【はひとつ】	1. 自営業・家族従業者 15.3% 2. 会社経営者・役員 2.9% 3. 常勤(正社員) 30.0% (無回答 95) 4. 派遣・契約社員・嘱託等 7.8% 5. アルバイト・パートタイマー 12.6% 6. 働いていない(学生を含む) 31.3%	1. 自営業・家族従業者 18.3% 2. 会社経営者・役員 4.9% 3. 常勤(正社員) 29.0% (無回答 126) 4. 派遣・契約社員・嘱託等 5.0% 5. アルバイト・パートタイマー 10.0% 6. 働いていない(学生を含む) 32.8%
(3) 仕事の種類は、大きく分けて次のどれにあたりますか。 【はひとつ】	1. 専門職 18.6% (教員、個人教師、弁護士、医師、看護師、芸術家、スポーツ選手、宗教家、技術者など) 2. 管理職 11.4% (課長以上の管理職、会社役員、議員、駅長など) 3. 事務職 16.4% (総務・企画事務、経理事務、情報機器のオペレーター、校正など) 4. 販売職 7.5% (小売店主、販売員、外勤のセールスマン、外交員など) 5. 生産工程・労務職 4.4% (大工、家具職人、工場作業員、建築作業員、清掃員、トラック運転手など) 6. サービス職 9.2% (料理人、美容師、クリーニング職、ウエイトレス、家政婦、タクシー運転手など) 7. 保安職 0.8% (警官、自衛官、守衛など) 8. 農業従事者 0.2% (無回答 137) 9. 働いていない(学生を含む) 31.6%	1. 専門職 16.4% (教員、個人教師、弁護士、医師、看護師、芸術家、スポーツ選手、宗教家、技術者など) 2. 管理職 18.1% (課長以上の管理職、会社役員、議員、駅長など) 3. 事務職 13.1% (総務・企画事務、経理事務、情報機器のオペレーター、校正など) 4. 販売職 6.3% (小売店主、販売員、外勤のセールスマン、外交員など) 5. 生産工程・労務職 3.6% (大工、家具職人、工場作業員、建築作業員、清掃員、トラック運転手など) 6. サービス職 8.3% (料理人、美容師、クリーニング職、ウエイトレス、家政婦、タクシー運転手など) 7. 保安職 0.7% (警官、自衛官、守衛など) 8. 農業従事者 0.3% (無回答 165) 9. 働いていない(学生を含む) 33.2%
(4) お勤め先の従業員数は会社全体でどのくらいですか。 【はひとつ】	1. 5人未満 14.8% 2. 5~30人未満 13.4% 3. 30~300人未満 14.1% 4. 300~1000人未満 7.7% 5. 1000人以上 18.2% (無回答 173) 6. 働いていない(学生を含む) 31.8%	1. 5人未満 16.2% 2. 5~30人未満 13.4% 3. 30~300人未満 12.3% 4. 300~1000人未満 7.3% 5. 1000人以上 17.5% (無回答 179) 6. 働いていない(学生を含む) 33.3%
(5) お勤め先からの帰宅時間が午後9時以降になる日は、週にどのくらいありますか。 【はひとつ】	1. ほぼ毎日 13.8% 2. 週に3~4日くらい 9.4% 3. 週に1~2日くらい 12.0% 4. めったにない 32.9% (無回答 181) 5. 働いていない(学生を含む) 31.9%	1. ほぼ毎日 15.6% 2. 週に3~4日くらい 9.0% 3. 週に1~2日くらい 11.9% 4. めったにない 30.1% (無回答 187) 5. 働いていない(学生を含む) 33.4%

問 50 あなたのお宅では、**世帯全体**で昨年どのくらいの収入がありましたか。あてはまる番号に**ひとつだけ**をつけてください。(無回答 271)

- | | | | | | |
|------------------|-------|------------------|-------|------------------|-------|
| 1. 0～200万円未満 | 9.8% | 2. 200～500万円未満 | 29.7% | 3. 500～800万円未満 | 21.1% |
| 4. 800～1100万円未満 | 15.5% | 5. 1100～1400万円未満 | 10.0% | 6. 1400～1700万円未満 | 5.0% |
| 7. 1700～2000万円未満 | 3.1% | 8. 2000万円以上 | 5.7% | | |

問 51 **あなたご自身**は、昨年どのくらいの収入がありましたか。あてはまる番号に**ひとつだけ**をつけてください。(無回答 119)

- | | | | | | |
|------------------|-------|------------------|-------|------------------|-------|
| 1. 0～200万円未満 | 42.5% | 2. 200～500万円未満 | 30.5% | 3. 500～800万円未満 | 13.1% |
| 4. 800～1100万円未満 | 6.5% | 5. 1100～1400万円未満 | 3.3% | 6. 1400～1700万円未満 | 1.3% |
| 7. 1700～2000万円未満 | 1.1% | 8. 2000万円以上 | 1.8% | | |

問 52 あなたはご自身の健康状況について、どのように思われますか。もっとも近い番号に**ひとつだけ**をつけてください。(無回答 77)

- | | | | |
|-------------|-------|------------|-------|
| 1. 健康である | 31.6% | 2. まあ健康である | 53.8% |
| 3. あまり健康でない | 11.1% | 4. 健康でない | 3.6% |

問 53 **現在配偶者がいらっしゃる方におうかがいします**。次の質問(1)～(2)のそれぞれについて、もっとも近い番号に**ひとつだけ**をつけてください。

(1) お二人はどのようなきっかけでお知り合いになりましたか。(非該当 1969 無回答 147)

- | | | | | | |
|----------------------|-------|----------------------------|------|--------------|-------|
| 1. 学校で | 10.5% | 2. (学生時代の)アルバイトで | 2.4% | 3. 職場や仕事関係で | 36.2% |
| 4. 趣味や習い事で | 4.1% | 5. 街なかや旅先で | 3.8% | 6. 幼なじみ・隣人など | 1.5% |
| 7. 友人・知人を通じて(見合いは除く) | 20.8% | 8. 親・きょうだい・親せきを通じて(見合いは除く) | 5.7% | | |
| 9. 見合いで | 13.7% | 10. 結婚相談所・紹介所で | 1.1% | 11. その他 | 0.2% |

(2) そのとき、配偶者の方はどちらにお住まいでしたか。(非該当 1969 無回答 86)

- | | |
|------------------------|-------|
| 1. 現在の住所に住んでいた | 11.7% |
| 2. 現在の住所から、徒歩あるいは自転車圏内 | 9.2% |
| 3. 現在の住所ではないが、世田谷区内 | 9.8% |
| 4. 東京 23 区内 | 29.7% |
| 5. 東京都内 | 8.2% |
| 6. 神奈川・埼玉・千葉県内 | 14.4% |
| 7. その他(海外含む) | 16.9% |